

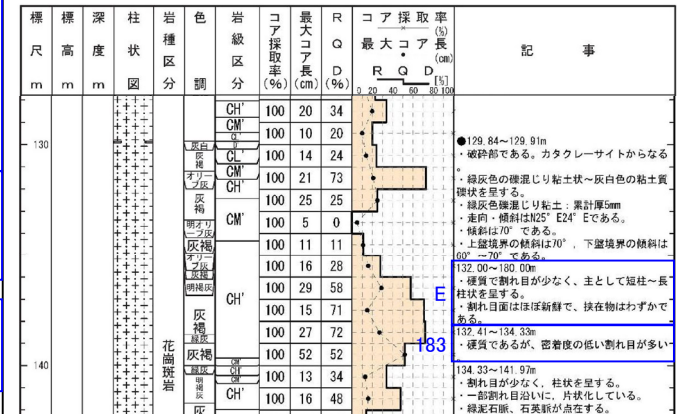
コア観察カード
(H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	地層心 位置	地層心 深度	細区分				最大コア長 (cm)	岩級区分	記事区分	記事内容
				割れ目状態	コアの形状	風化	変質				
										<p>基盤岩コア観察カード 期層・破砕粒状・細結スケア等</p> <p>129.91~130.57m: CL 岩片は堅硬であるが高角度割れ目、ゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し片状コアが主体を示す。</p> <p>130.57~131.27m: CM 割れ目ぞいで薄く砂状化するものがある。</p> <p>131.27~132.41m: CH 白色の筋状割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。</p> <p>132.41~134.33m: CM 岩片は堅硬であるが一部で密着度の低いゆ着割れ目が多くφ30m/前後に分離・細片化する部分もある。</p> <p>134.33~141.97m: CH 割れ目が少なく、柱状を呈する。</p>	

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
<p>129.91~130.57m: CL 岩片は堅硬であるが高角度割れ目、ゆ着割れ目が1~2cm間隔で分布し片状コアが主体を示す。</p> <p>130.57~131.27m: CM 割れ目ぞいで薄く砂状化するものがある。</p> <p>131.27~132.41m: CH 白色の筋状割れ目が多いが、周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。</p>
<p>132.41~134.33m: CM 岩片は堅硬であるが一部で密着度の低いゆ着割れ目が多くφ30m/前後に分離・細片化する部分もある。</p> <p>134.33~141.97m: CH 割れ目が少なく、柱状を呈する。</p>

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
181	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態、鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 ・129.91~130.57mの一部割れ目沿いで砂状化するが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
182	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の密着状態、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・“コアの形状”欄、RQDや最大コア長の傾向を踏まえ、132.00~180.00mを短柱~長柱状と記載。 ・“コアの硬さ”欄に基づき硬質と記載。 ・記事No.183等に基づき、割れ目面はほぼ新鮮で挟在物はわずかであるとまとめ書き。
183	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

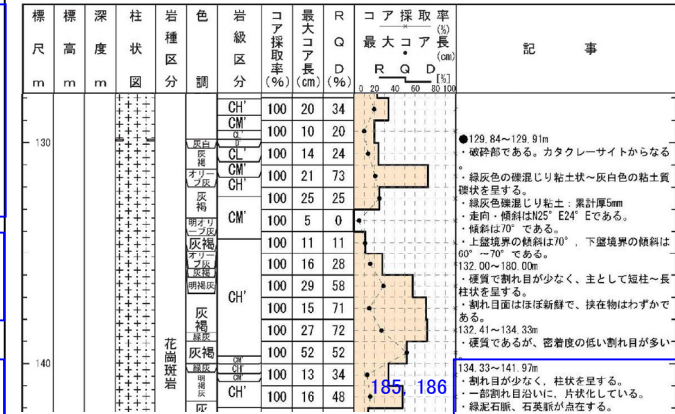
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層 位置	地層 名称	細区分				岩種	色調	備考	
				コアの形状	割れ目	変色	その他				
135	133.00									133.00~133.60m 100% 着割れ目ぞいにφ30m前後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。 133.60~133.85m φ2~3m暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリーブ灰)する。 133.85~134.35m φ2~3m暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリーブ灰)する。 134.35m 70~80°に暗緑灰色の厚さ1~2m緑泥石粘土とその上盤に厚さ15mのφ5~10m/m岩片をはさむ。 134.33~139.66m: CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。 着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 134.56~134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリーブ灰)する。 134.85m以深では処々にφ10m/m前後で橙色の長石が晶出する。 135.76m 80° 割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。 136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は厚さ1~2m/mの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。	
	133.60									184	
	134.35										185
	134.85										186

記事内容
133.00~133.60m間は着割れ目ぞいにφ30m前後に分離し易いが砂や粘土ははさまない。 133.39~133.85m φ2~3m暗緑色の緑泥石を斑点状に伴い、石基も淡緑化(明オリーブ灰)する。 区間全体が緑泥石化している。
134.35m 70~80°に暗緑灰色の厚さ1~2m緑泥石粘土とその上盤に厚さ15mのφ5~10m/m岩片をはさむ。
134.33~139.66m: CH 堅硬・塊状で未風化・未変質。 着割れ目は少量分布するが周囲と同化しハンマーの強打でも分離しない。 134.56~134.70mは緑泥石化により淡緑色化(オリーブ灰)する。
134.85m以深では処々にφ10m/m前後で橙色の長石が晶出する。
135.76m 80° 割れ目は鏡肌もち交差する割れ目の一部を切っている(sjと評価される)。
136.09m・60°、136.33m・65°、136.56m・60°で前2者は厚さ1~2m/mの緑泥石脈、後者は石英脈が密着して分布。粘土化や砂状化は伴わない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
184	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の密着状態、挟在物の有無、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 134.35mに岩片を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
185, 186	<ul style="list-style-type: none"> “コアの形状”欄に基づき、下端深度を141.97m、柱状と記載。 記事No.191、192に基づき、一部割れ目沿いに片状と記載。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 割れ目の密着状態、変色については、補足的なものであるため削除。 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 135.76mで割れ目を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。

コア観察カード (H27年8月)

深尺 (m)	深尺 (m)	採寸 位置	採寸 順序	採寸 方法	細区分	コア観察カード	
						観察者	観察日
0.5					GP	187	137.52~137.62m 晶洞中に石英、橙色の長石、緑泥石などが晶出している。
0.5						188	138.35m, 138.50m ゆ着割れ目ぞいに開口割れ目化している。
0.5						189	139.02~139.21m 緑泥石化で緑灰色化する。
0.5						190	139.37m 70° 厚さ2~3m/m脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1m/mと微細な黄鉄鉱も点在する。
0.5						191	139.66~139.96m: CM 割れ目がやよくなる。 挟在物は分布しない。
0.5							139.96~140.39m: CH

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
187 137.52~137.62m 晶洞中に石英、橙色の長石、緑泥石などが晶出している。
188 138.35m, 138.50m ゆ着割れ目ぞいに開口割れ目化している。
189 139.02~139.21m 緑泥石化で緑灰色化する。
190 139.37m 70° 厚さ2~3m/m脈に緑泥石と石英が共生して分布。φ0.1m/mと微細な黄鉄鉱も点在する。
191 139.66~139.96m: CM 割れ目がやよくなる。 挟在物は分布しない。
139.96~140.39m: CH

申請書用柱状図

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア 採取率 (%)	最大 コア長 (cm)	コア採取率 (%)				記事
									R	Q	D	その他	
140			+	花崗斑岩	灰褐色 斑状	CM	100	5	0				・走向・傾斜は25° E24° Eである。 ・傾斜は70° である。 ・上盤境界の傾斜は70°、下盤境界の傾斜は60°~70° である。 ・132.00~130.00m ・稜角で割れ目が少なく、主として短柱~長柱状を呈する。 ・割れ目面はほぼ新鮮で、挟在物はわずかである。 ・132.41~134.33m ・硬質であるが、密着度の低い割れ目が多い。 ・134.33~141.97m ・割れ目が少なく、柱状を呈する。 ・一部割れ目沿いに、片状化している。 ・緑泥石脈、石英脈が点在する。 ・141.97~147.08m ・硬質であるが、割れ目がやや多く、主として短柱状を呈する。 ・一部割れ目沿いに、細片化している。
						CH	100	11	11				
						CH	100	16	28				
						CH	100	29	58				
						CH	100	15	71				
						CH	100	27	72				
						CH	100	52	52				
						CH	100	13	34				
						CH	100	16	48				
						CM	100	14	14				
CM	100	10	30										
CM	100	8	0										

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
187	・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
188	・割れ目の密着状態・開口状況、鉱物の晶出、変色については、補足的なものであるため削除。
189	・鉱物脈、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
190	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
191	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。

H27-B-3

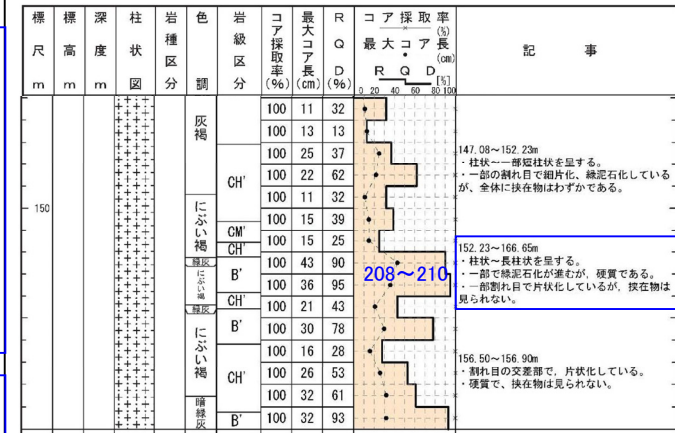
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

掘削 深度 (m)	掘削 位置	地層 区分	地層 名称	細区分				崩壊 区分	備考
				崩壊 区分	崩壊 区分	崩壊 区分	崩壊 区分		
152.23									
152.24									
152.25									
153.20									
153.25									
153.60									
154.42									
154.60									
156.50									

記事内容
152.23~153.85m:B 堅硬、塊状で割れ目はわずか。割れ目挟在物は分布しない。 割れ目やゆ着割れ目の一部は割れ目ぞいに緑泥石化するが硬質。 152.50~152.67mは上下端を厚さ10~20m/mの石英脈に囲まれた「プロトカタ クレーサイト」であるが、角礫と基質は同化し硬化している。
153.20m付近にφ10m/mと大型・橙色のカリ長石斑晶が点在。 153.25~153.60m 60~80°と高角な白色筋状のゆ着割れ目が数本分布する が密着度高く開口化しない。
153.85~154.60m:CH 堅硬、塊状
154.42~154.60mは緑泥石化が進むが硬質。 上端では割れ目が交差し片状化するが微細な黄鉄鉱を伴う以外は粘土、砂な どはさまない。
154.60~156.18m:B 堅硬、塊状で割れ目少ない。 155.25以深で60~90°の高角度白色筋状のゆ着割れ目が多いが密着度は高 く、ハンマーの強打でも分離しない。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
208~210	<ul style="list-style-type: none"> “コアの形状”欄に基づき、下端深度を166.65m、柱状~長柱状と記載。 “コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 緑泥石化、割れ目沿いの片状化、挟在物の有無についてまとめ書き。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 152.50~152.67mにプロトカタクレーサイトとの記載があるが、岩盤の劣化が認められず、区間内の岩片やそれを取り巻く石英脈に系統的な配列も認められないことから、破碎部ではなく熱水の注入により生じたものと判断し削除。 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 割れ目の密着状態・開口状況、黄鉄鉱の晶出、変色、割れ目の傾斜、石英の挟在については、補足的なものであるため削除。

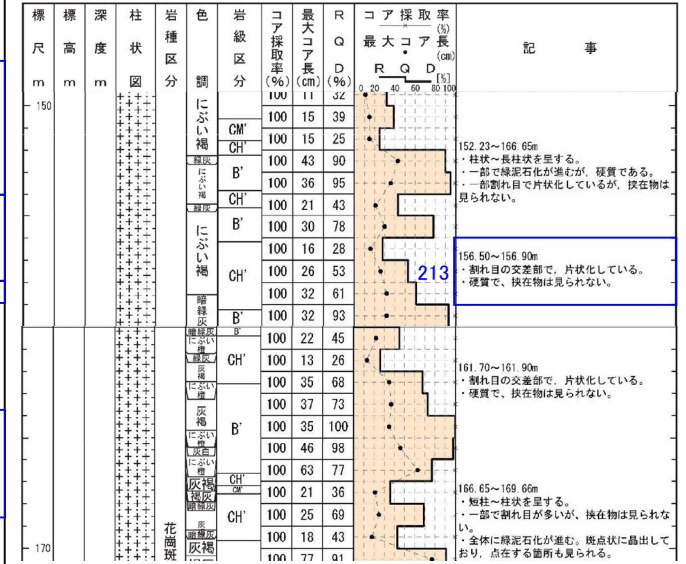
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 /±5 (m)	深度 (m)	境界 鳥居位置	地質名	色調	細区分				岩級区分	岩種区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目の性状	割れ目の性状	割れ目の性状	割れ目の性状			
156	156.25									211 156.25~156.40m 一部に緑泥石化し、30m/mの斑状に緑灰色化する。軟化は伴わない。 156.40~156.14m 白色筋状の迎着割れ目の一部がはがれかかっているがよく密着している。	
										212 156.18~159.24m:CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混えるが長さ10~20cm(Ⅲ)が主体。 割れ目や迎着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。	
										213 156.50~156.90m 割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。	
										214 157.00m 以深は20~40° 割れ目が主体。 157.35~157.89m わずかながら石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。 157.83~157.89m 30° 程度でφ2~3m/mの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性をもって点在する。 158.20~158.30m φ10m/m前後の大型なカリ長石が点在。	
										215 158.54mと158.62mに70~75° 厚1~2m/mで石英を伴って緑泥石脈が分布。よく密着し分離しない。 158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟化は伴わず堅硬である。 159.24~160.40m:B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。 緑泥石化により暗緑色や白色筋状の迎着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物も分布しない。 全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留、全体的には色調がまだら模様を呈する。	

記事内容
155.25m 70~80° 割れ目で交差する一部の迎着割れ目が切られている(変位不明)。 156.77~156.80m 一部で緑泥石化しφ30m/mの斑状に緑灰色化する。軟化は伴わない。 156.00~156.14m 白色筋状の迎着割れ目の一部がはがれかかっているがよく密着している。
156.18~159.24m:CH 堅硬、塊状。一部に長さ20cm以上の柱状コアも混えるが長さ10~20cm(Ⅲ)が主体。 割れ目や迎着割れ目の一部は緑泥石化するがよく密着している。
156.50~156.90m 割れ目が交差し一部で片状化するが挟在物は分布しない。
157.00m 以深は20~40° 割れ目が主体。 157.35~157.89m わずかながら石基も緑泥石化し緑灰色を帯びる。 157.83~157.89m 30° 程度でφ2~3m/mの暗緑灰色の緑泥石が弱い配列性をもって点在する。 158.20~158.30m φ10m/m前後の大型なカリ長石が点在。
158.54mと158.62mに70~75° 厚1~2m/mで石英を伴って緑泥石脈が分布。よく密着し分離しない。 158.54m以深は石基も含め緑泥石化が進み暗緑灰色を呈する。軟化は伴わず堅硬である。 159.24~160.40m:B 堅硬、塊状で割れ目が少ない。 緑泥石化により暗緑色や白色筋状の迎着割れ目を多く含むが堅硬で密着度高く、ハンマーの強打でも分離しない。 割れ目挟在物も分布しない。 全体に緑泥石化が進み暗緑灰色が主体であるが、緑泥石化の弱い部分は母岩の橙色が残留、全体的には色調がまだら模様を呈する。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
211	<ul style="list-style-type: none"> 155.25mで割れ目が切られているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 緑泥石化については、記事No.208~210でまとめ書きしていることから削除。 割れ目の密着の程度については、補足的なものであるため削除。
212	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化、割れ目の密着状態については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。
213	<ul style="list-style-type: none"> 変更なし
214	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の傾斜、色調については、補足的なものであるため削除。 緑泥石化については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
215	<ul style="list-style-type: none"> 緑泥石化、割れ目の密着状態、硬軟、割れ目の発達程度、挟在物の有無については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 石英の晶出、色調については、補足的なものであるため削除。

H27-B-3

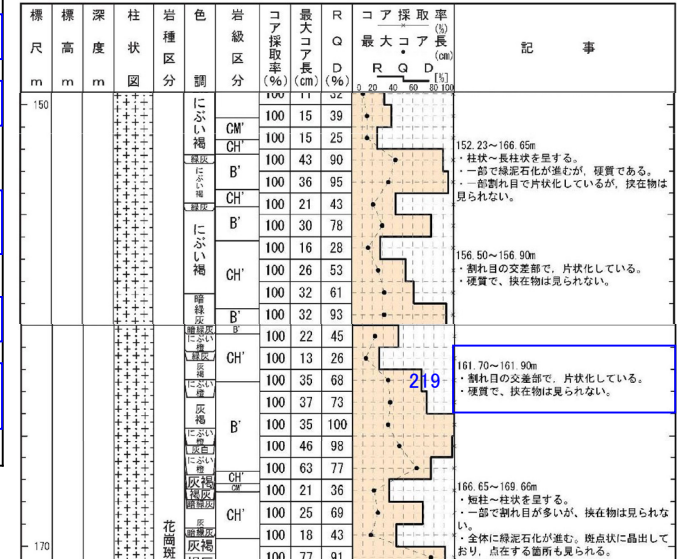
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 160 (m)	深度 (m)	地質名	色調	細区分				R	Q	D	最大コア長 (cm)	R	Q	D	備考
				割れ目	色調	風化	変質								
	159.45														
	160.40														
	161.10														
	161.70														
	162.12														
	162.46														
	162.57														

記事内容
216 159.45m 60° 割れ目が交差する65° 巾着割れ目を切っている。 (見掛け変位量2m/m左ズレ)
217 160.40~162.57m: CH 坚硬、塊状。上下位に比べやや割れ目が多い。割れ目挟在物は分布しない。
218 161.10~161.69m φ5m/m前後と大型な暗緑色・緑泥石を斑点状に含む。このうち、上端側の161.10~161.24mは石基も含む全体で緑泥石化が進み、緑灰色を呈する。
219 161.70~161.90m 割れ目交差部の一部で片状化するが岩片は坚硬で、粘土や砂をはさまない。
220 162.12~162.18m φ10m/m前後と大型な橙色のカリ長石が点在する。 162.46~162.57m 80~90° の巾着割れ目が5~20m/m間隔で平行に分布。 密着度が低く、ハンマーの強打で分離する。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
216	・159.45mで割れ目を切っているとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
217	・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟、割れ目の発達程度、挟在物の有無については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。
218	・緑泥石化については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。 ・色調については、補足的なものであるため削除。
219	・表現の見直し(粘土や砂をはさまない→挟在物はみられない)
220	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。 ・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。

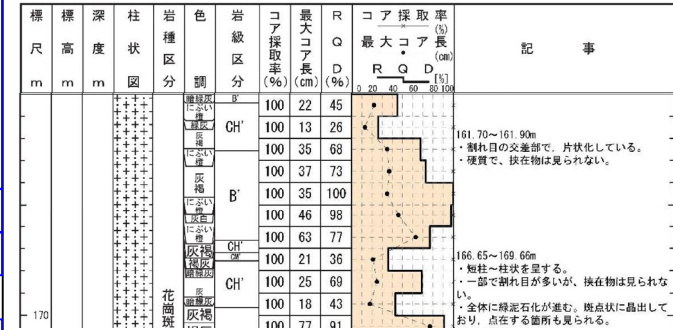
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	層序 位置	地質 心	細区分				最大出露 [D] [5]	岩級区分	記事内容
				割れ目 形状	コアの 状態	風化 程度	葉 集			
163	162.57 162.74						168	221	162.57~166.65m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に厚1~2m/mの白色筋状のゆ着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。 ゆ着割れ目には石英を脈状にはさむものも多い。 橙色のカリ長石が濃集する部分も含み、この部分では色調が橙色系(にぶい橙色など)を呈している。 緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目ぞいでは殆んど分布せずφ2~5m/mの斑点状などとして晶出している。	
0.5								222	163.50~163.60m 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土ははさまない。面の一部に黄鉄鉱が晶出している。	
164							173	223	164.00~164.30m φ10m/mと大型・橙色のカリ長石と同径・緑灰色の緑泥石が混在する。	
0.5	164.50 164.56							224	164.50m φ50m/m緑泥石晶洞。石英などの2次鉱物を伴っている。	
164.5	164.94 164.95						180	225	164.94m 70°密着割れ目上盤側に厚さ20m/mの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は堅硬。	

記事内容
162.57~166.65m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に厚1~2m/mの白色筋状のゆ着割れ目が発達するが、密着度は高く、ハンマーの強打でも分離しない。 ゆ着割れ目には石英を脈状にはさむものも多い。 橙色のカリ長石が濃集する部分も含み、この部分では色調が橙色系(にぶい橙色など)を呈している。 緑泥石化は割れ目やゆ着割れ目ぞいでは殆んど分布せずφ2~5m/mの斑点状などとして晶出している。
163.50~163.60m 高角度割れ目が交差し、一部で片状化するが岩片は堅硬で、砂や粘土ははさまない。面の一部に黄鉄鉱が晶出している。
164.00~164.30m φ10m/mと大型・橙色のカリ長石と同径・緑灰色の緑泥石が混在する。
164.50m φ50m/m緑泥石晶洞。石英などの2次鉱物を伴っている。
164.94m 70°密着割れ目上盤側に厚さ20m/mの石英脈が緑泥石を伴って分布。上下端境界は堅硬。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
221	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 ・硬軟、割れ目の発達程度、緑泥石化については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着状態、割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
222	<ul style="list-style-type: none"> ・片状化、硬軟、挟在物の有無については、記事No. 208~210でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の傾斜、黄鉄鉱の晶出については、補足的なものであるため削除。
223	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
224	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
225	<ul style="list-style-type: none"> ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

H27-B-3

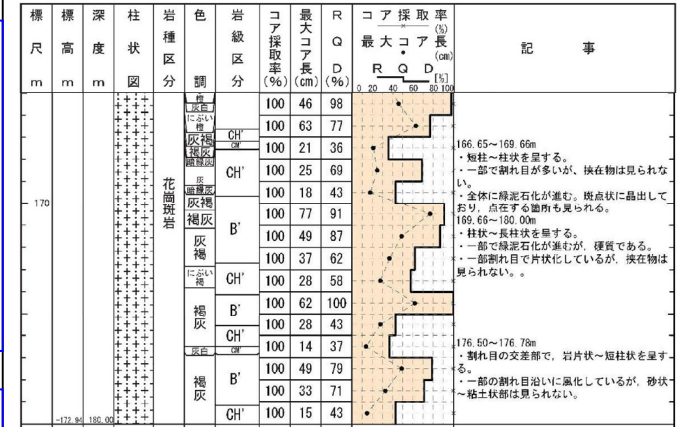
コア観察カード (H27年8月)

標尺 170 (m)	深度 (m)	境界 ・地層位置	地層名	色調	細区分				最大コア長	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目の形状	割れ目の長さ	傾斜	密着			
0.5	170.22	Gp	花崗斑岩	灰褐色	割れ目の形状	割れ目の長さ	傾斜	密着	171	229	169.67~170.22m φ2~3mの暗緑灰色緑泥石が斑点状に多く晶出。 170.20~170.65m 60~70°のの着割れ目が数本分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。
					171.00~171.08m φ10mの大型の橙色のカリ長石が晶出し点在する。 171.29m 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。						
0.5	171.85	Gp	花崗斑岩	灰褐色	割れ目の形状	割れ目の長さ	傾斜	密着	171	230	171.85m 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。
					172.32~172.53m φ2~3mの暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mの石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。						

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
169.67~170.22m φ2~3mの暗緑灰色緑泥石が斑点状に多く晶出。
170.20~170.65m 60~70°のの着割れ目が数本分布するが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。
171.00~171.08m φ10mの大型で橙色のカリ長石が晶出し点在する。 171.29m 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。
171.85m 割れ目が交差するが交差部周辺は片状化しない。
172.32~172.53m φ2~3mの暗緑灰色の緑泥石が幅0.5~1mの石英細脈を伴って、斑点状に晶出、点在する。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
229	<ul style="list-style-type: none"> ・緑泥石化、割れ目沿いの片状化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の傾斜、割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
230	<ul style="list-style-type: none"> ・緑泥石化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

H27-B-3

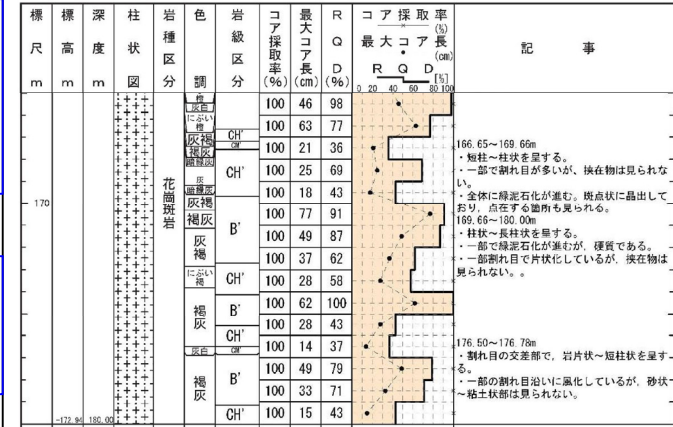
コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	緯度・経度 位置	地質 心	細区分				最大コア 長さ (cm)	採取 区分	採取 区分	基盤岩コア観察カード 標準・観察仕様・詳細スケッチ等
				割れ目 形状	割れ目 長さ	割れ目 幅	割れ目 密度				
173	172.67 172.26									231	
174	174.13									232	
175											

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
<p>172.69~174.13m: CH 堅硬,塊状でコア長20cm以上の長柱状コアも含むが10~20cmの柱状コア主体。 一部で緑泥石化し,割れ目やゆ着割れ目にそって細脈状~φ1~3m/mの斑点状に晶出している。割れ目面には砂や粘土ははさまない。細脈部には石英を伴うこともある。 173.66~176.73m 密着度の低いゆ着割れ目10~20m/m間隔で分布。ハンマーの強打で分離・細片化するが粘土や砂など挟在物は分布しない。 173.93m 43°割れ目はφ5m/mの橙色カリ長石を切っている。</p>
<p>174.13~175.55m: B 堅硬,塊状で一部の割れ目交差部で区間長約10cm片状化するが,コア長20cm以上の長柱状コア主体。 一部に白色筋状のゆ着割れ目を含むが密着度は高くハンマーの強打でも分離しない。 上位側に比べ緑泥石化は弱くなる。</p>

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
231	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については,“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟,割れ目の発達程度,緑泥石化,挟在物の有無については,記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着状態,石英の晶出については,補足的なものであるため削除。 ・173.93mでカリ長石を切っているとの記載があるが,周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
232	<ul style="list-style-type: none"> ・岩級及びその区間については,“岩級区分”欄で示していることから削除。 ・硬軟,割れ目の発達程度,緑泥石化については,記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 ・割れ目の密着状態については,補足的なものであるため削除。

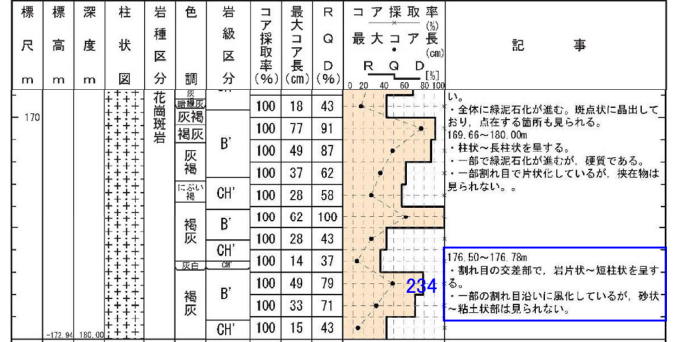
H27-B-3 コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	柱状図	色調	岩種区分	岩級区分	細区分				破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
						片状化	風化	変質	その他		
175.15	175.22			花崗斑岩	B'						233 175.15~175.22m: CH 割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟雑物は分布しない。 175.55~176.50m: CH 堅硬、上下位に比べや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。ゆる着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。 175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は堅硬で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。
176.50	176.78			花崗斑岩	C						234 176.50~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。 175.59~175.62mは30°割れ目ぞいに風化(γ)、軟化(D)、砂状~粘土状部ははさまない。
176.78	179.15			花崗斑岩	B						235 176.78~179.15m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれるゆる着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5m/暗緑灰色斑点状~厚さ0.5m/m細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。
177.65	177.83			花崗斑岩	B'						236 177.65m 35°厚さ2~3m/mの石英脈が分布。周囲と同化している。
177.83	178.27			花崗斑岩	B'						237 177.83~178.27m 間にはφ5~10m/mと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。
178.31	178.39			花崗斑岩	B'						238 178.31~178.39m 上端75°, 下端70°割れ目に囲まれ厚さ25m/m、φ5~10m/mに細片化している。厚さは25m/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。
178.45	180.00			花崗斑岩	B'						239 178.45m以深にはゆる着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 179.15~180.00m: CH 179.37~179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は堅硬で面は未風化・未変質で挟雑物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 ゆる着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
175.15~175.22m 割れ目が交差し片状化するが、岩片は硬質で割れ目面には挟雑物は分布しない。 175.55~176.50m: CH 堅硬、上下位に比べや割れ目が多いがコア長10cm~20cm(Ⅲ)が主体。ゆる着割れ目も含むが大半は密着度が高くハンマーの打撃でも分離しない。 175.45~175.71mは片状化するがコアチューブ引上げ時に片状化した可能性が高い。岩片は堅硬で挟雑物は分布しない。 面の一部は赤褐色化し、断片的に鏡肌も認められる。 赤褐色部は褐鉄鉱である可能性がある。
176.50~176.78m: CM 割れ目が交差し短柱状~一部岩片状を呈する。 175.59~175.62mは30°割れ目ぞいに風化(γ)、軟化(D)、砂状~粘土状部ははさまない。
176.78~179.15m: B 堅硬、塊状でコア長20cm以上の棒状コア主体。 一部に含まれるゆる着割れ目も密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 上位に比べ緑泥石化が進み、φ2~5m/暗緑灰色斑点状~厚さ0.5m/m細脈状で分布する。細脈状のものは大半が周囲とよく密着し、開口化していない。
177.65m 35°厚さ2~3m/mの石英脈が分布。周囲と同化している。
177.83~178.27m 間にはφ5~10m/mと大型な橙色のカリ長石が晶出・点在する。
178.31~178.39m 上端75°, 下端70°割れ目に囲まれ厚さ25m/m、φ5~10m/mに細片化している。厚さは25m/mでごく薄く砂状化する部分がある。上端面には緑泥石がフィルム状に付着している。
178.45m以深にはゆる着割れ目が多いが密着度が高く、ハンマーの強打でも分離しない。 179.15~180.00m: CH 179.37~179.68m間の一部は割れ目交差部で片状化するが、岩片は堅硬で面は未風化・未変質で挟雑物も分布しない。 一部でわずかに緑泥石がフィルム状に付着する程度。 ゆる着割れ目の多くはすでに開口割れ目化している。

申請書用柱状図



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
233	<ul style="list-style-type: none"> 片状化、挟在物の有無、硬軟、割れ目の発達の状態については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 割れ目の密着状態、褐鉄鉱については、補足的なものであるため削除。 175.45~175.71mで断片的に鏡肌も認められるとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
234	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、岩級区分に含めて示していることから削除。 割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。
235	<ul style="list-style-type: none"> 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示していることから削除。 硬軟、割れ目の発達の状態、緑泥石化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。 割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。
236	<ul style="list-style-type: none"> 鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
237	<ul style="list-style-type: none"> 一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
238	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目沿いの細片化については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。
239	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の密着状態・開口状況については、補足的なものであるため削除。 岩級及びその区間については、“岩級区分”欄で示しているため削除。 片状化、挟在物の有無、緑泥石については、記事No.228でまとめ書きしていることから削除。

余白

H27-B-4

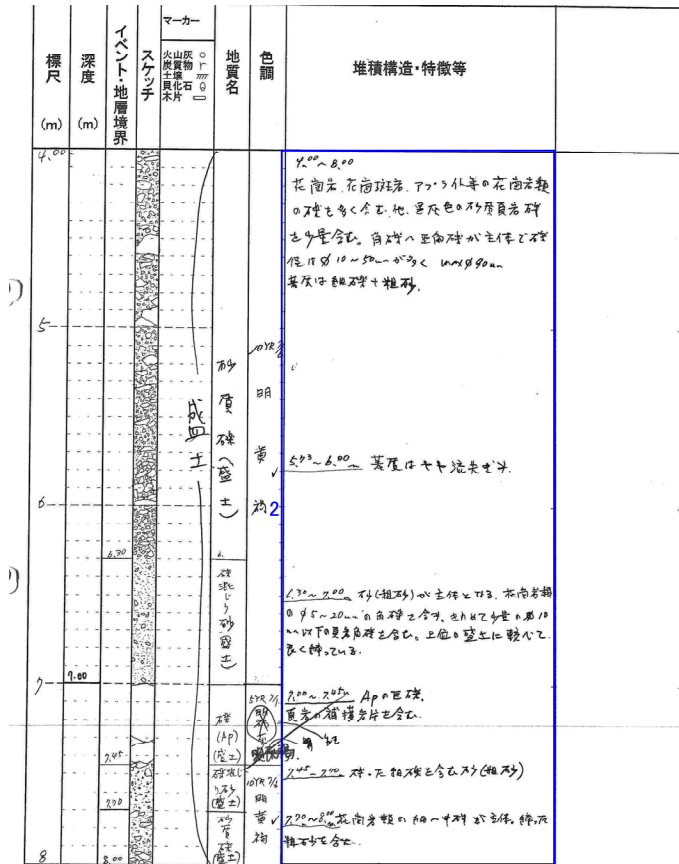
余白

H27-B-4

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



スケッチ: 礫はクサリ ● 半クサリ ○ 硬質 ○ 礫種は黒雲母花崗岩Gr, 花崗斑岩Gp, アプライトAp 等
境界 明瞭 — 不明瞭 - - - 亀裂は赤線, 角度, 条線等

記事内容
4.00~8.00 花崗岩、花崗斑岩、アプライト等の花崗岩類の礫を多く含む。他、黒灰色の砂質頁岩礫を少量含む。角礫~亜角礫が主体で礫径はφ10~50mmが多くmaxφ90mm 基質は細礫+粗砂
5.73~6.00m 基質はやや流しきみ。
6.30~7.00m 砂(粗砂)が主体となる。花崗岩類のφ5~20mmの角礫を含み、きわめて少量のφ10mm以下の頁岩角礫を含む。上位の盛土に較べて、良く締っている。
7.00~7.45m Apの巨礫。 頁岩の補獲岩片を含む。
7.45~7.70m 礫った細礫を含む砂(粗砂)
7.70~8.00m 花崗岩類の細~中礫が主体。締った粗砂を含む。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	コア採取率	最大コア長	記事
m	m	m	図	区分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
					黄		100					100		A
					明黄褐		100					100		0.00~13.75m 盛土である。
					盛土		100					100		
					明黄褐		100					100		

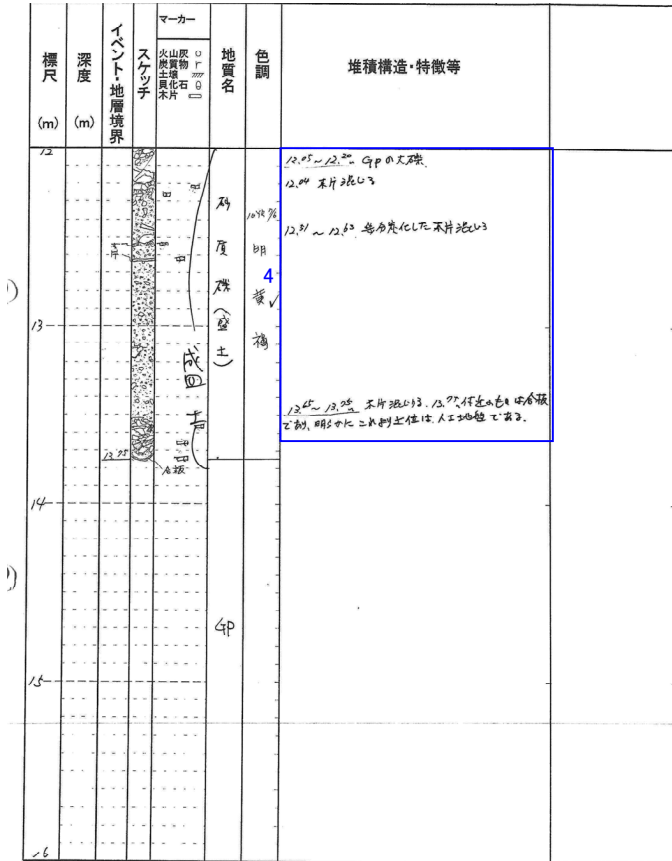
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A.2	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

H27-B-4

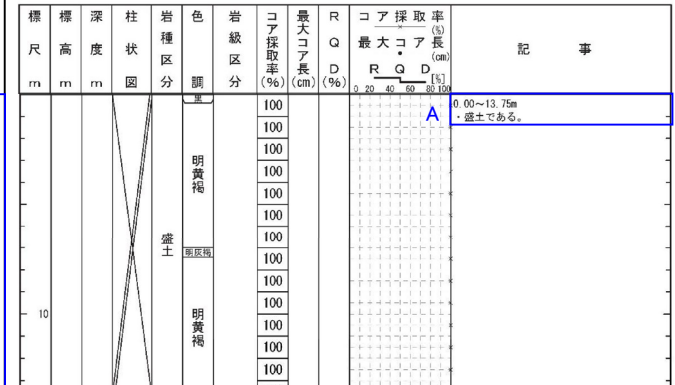
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
12.05~12.20m Gpの大礫。 12.04 木片混じり
12.51~12.63 幾分炭化した木片混じり
13.65~13.75m 木片混じり。13.75m付近のものは合板であり、明らかにこれより上位は、人工地盤である。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
A,4	・堆積物の記載は、埋土、砂礫等の性状を示すこととし、“地質名”欄に対応した層相名を記載。

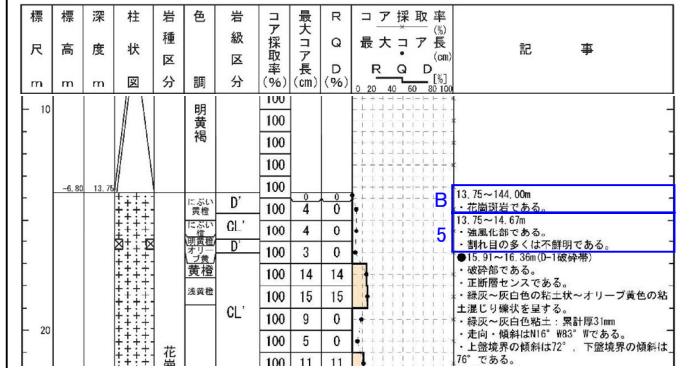
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地質名	色	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				粗粒部	中粒部	細粒部	風化				
		盛土									
	13.75									5 13.75~14.67m 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる	
	14.00									6 14.24m付近 割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著 14.53m付近 頁岩礫3ヶ。上部からの崩壊物と思われる	
	14.67									6 14.67m~ 風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い、割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。	

記事内容
5 13.75~14.67m 風化が著しく、割れ目の多くは不鮮明となる
6 14.24m付近 割れ目に沿ったマンガンの汚染が顕著 14.53m付近 頁岩礫3ヶ。上部からの崩壊物と思われる
6 14.67m~ 風化は若干軽微となり、割れ目のほとんどが認識できるようになるが、コアは、軟質で脆い、割れ目に沿った薄い変質脈が白く見られるものがある。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
B	・“地質名”欄に基づき、花崗斑岩とその深度区間を記載。
5	・“風化”欄に基づき、強風化部と記載。
6	・マンガン汚染、変質脈については、補足的なものであるため削除。 ・14.53mの頁岩礫については、掘削時の孔壁崩壊により混入したものと判断し削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・硬軟や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	標準高位置	地質	細区分				RQD	最大コア長	破砕度区分	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目	風化	変質	その他				
15	15.15								7	15.00~15.49m 低角度の割れ目が優勢、風化により割れ目沿いは劣化。砂~シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。	
	15.66								7	15.52~15.60m 礫状コア、多くは上部からの崩壊物と思われる。	
	15.91								8	15.60~15.91m 割れ目沿いの劣化が著しく脆弱	
16	16.07								8	15.91~16.36m 破砕帯である。全体にマンガンで汚染される	
	16.36								9	15.91m 上盤72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚さ2~6mmで見られる。	
	16.52								9	16.36m 下盤76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。	
	16.86								10	16.36~16.52m 上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。	
	17.03								11	16.52~17.03m 割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫~砂状となる	
17	17.86								12	17.03~17.86m 低角度の割れ目が優勢、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。	

記事内容
15.00~15.49m 低角度の割れ目が優勢、風化により割れ目沿いは劣化。砂~シルト状の細粒物が見られる。コアも軟質である。
15.52~15.60m 礫状コア、多くは上部からの崩壊物と思われる。
15.60~15.91m 割れ目沿いの劣化が著しく脆弱
15.91~16.36m 破砕帯である。全体にマンガンで汚染される
15.91m 上盤72°、緑灰色の粘土がやや湾曲しながら厚さ2~6mmで見られる。
16.36m 下盤76°、灰白色の変質粘土が厚さ25mm程生じている。
16.36~16.52m 上位の破砕帯と風化の影響で劣化が著しい。
16.52~17.03m 割れ目沿いの劣化は顕著で一部礫~砂状となる
17.03~17.86m 低角度の割れ目が優勢、割れ目沿いの劣化が見られ、コアも軟質で表面はザラつく。

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
	15.15				D'	100	0	0			13.75~14.00m ・花崗閃岩である。
	15.66				CL'	100	4	0			13.75~14.67m ・強風化部である。
	15.91				D'	100	3	0			・割れ目の多くは不鮮明である。
	16.07				D'	100	14	14			●15.91~16.36m(D-1破砕帯) ・破砕帯である。
	16.36				CL'	100	15	15			・正断層センスである。
	16.52				CL'	100	9	0			・緑灰~灰白色の粘土状~オリブ黄色の粘土混じり礫状を呈する。
	16.86				CL'	100	5	0			・緑灰~灰白色粘土、累計厚31mm
	17.03				CL'	100	11	11			・走向・傾斜はN16° W83° である。
	17.86				CM'	100	7	0			・上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は76°である。
					CM'	100	5	0			16.52~17.03m ・一部礫~砂状を呈する。
					CM'	100	5	0			17.03~17.86m ・低角度の割れ目が多い。
					CM'	55	5	0			20.23~20.37m ・割れ目沿い、一部細礫状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
7	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・15.00~15.49mの割れ目沿いに砂~シルト状の細粒物を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・15.52~15.60mで礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
8, 9	<ul style="list-style-type: none"> ・破砕帯名を記載。 ・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・“色調”欄に基づき、オリブ黄色と記載。 ・“破砕度区分”欄に基づき、粘土混じり礫状と記載。 ・粘土の累計幅については、最大値の合計を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・劣化が著しいが、劣化に系統性が認められないことから削除。
11	<ul style="list-style-type: none"> ・変更なし
12	<ul style="list-style-type: none"> ・割れ目沿いの劣化については、当該区間周囲の割れ目と明瞭な差が認められないため削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。

H27-B-4

コア観察カード (H27年8月)

標尺 90 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層	色	相区分				RQD	最大コア長	岩級区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
					割れ目の 性状	子 の 性状	風化	変質				
	17.56										17.86~18.00 コア表面のザラつきは幾分軽微。	
	17.86										18.00~19.08 低角度の微細な割れ目が非常に多い	
	18.52										18.70~20.00 斜長石の風化し軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ	
	19.08										19.57~19.76m 礫状コアが主体となる	

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
13 17.86~18.00m コア表面のザラつきは幾分軽微。
13 18.00~19.08m 低角度の微細な割れ目が非常に多い
14 18.70~20.00m 斜長石の風化し軟質となった比較的大型の斑晶が目立つ
15 19.57~19.76m 礫状コアが主体となる

申請書用柱状図

標尺 m	標高 m	深度 m	柱状 図	岩種 区分	色 調	岩級 区分	コア採取率 (%)		最大コア長 (cm)		R (%)	コア採取率 (%)		最大コア長 (cm)	記事
							R	Q	D	Q		R	Q		
		17.56				D'	100	0	0						
		17.86				CL'	100	4	0						13.75~144.00m ・花崗閃岩である。
		18.52				D'	100	3	0						13.75~14.67m ・強風化部である。
		19.08				CL'	100	14	14						・割れ目の多くは不鮮明である。
		19.57				CL'	100	15	15						●15.91~16.35m(D-I破砕帯) ・破砕部である。
		19.76				CL'	100	9	0						・正断層センスである。
		19.94				CM'	100	7	0						・緑灰~灰白色の粘土状~オリブ黄色の粘 土層に礫状を呈する。
		20.00				CL'	100	11	11						・緑灰~灰白色粘土、集計厚31mm
		20.00				CL'	100	5	0						・走向・傾斜はN16° W83° である。
		20.00				CL'	100	5	0						・上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は 76°である。
		20.00				CL'	100	5	0						16.92~17.03m ・一部が礫状を呈する。
		20.00				CL'	100	5	0						17.02~17.86m ・低角度の割れ目が多い。
		20.00				CL'	55	5	0						20.23~20.37m ・割れ目良い、一部細礫状を呈する。

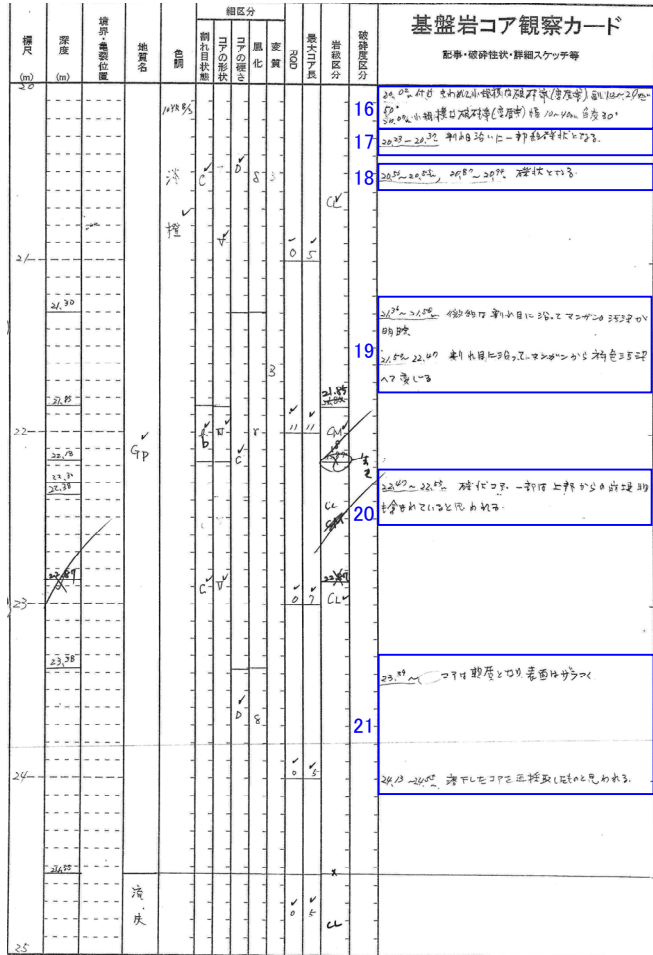
記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
13	・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
14	・一般的な岩相であり、石基及び斑晶の種類、粒径等については、特に目立つ区間のみ記載することとしており、特に目立つ区間ではないため削除。
15	・19.57~19.76mで礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。

H27-B-4

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
20.02m付近 きわめて小規模な破砕帯(変質帯)副10~20mm 50°
20.07m 小規模な破砕帯(変質帯)幅10~40mm角度30°
20.23~20.37m 割れ目沿いに一部細礫状となる。
20.56~20.55m, 20.87~20.94m 礫状となる。
21.36~21.50m 微細な割れ目に沿ってマンガンの汚染が明瞭
21.50~22.47 割れ目に沿ってマンガンから褐色汚染へと変じる
22.47~22.55m 礫状コア、一部は上部から崩壊物も含まれていると思われる。
23.39~ コアは軟質となり、表面はザラつく
24.13~24.55m 落下したコアを再採取したものと思われる。

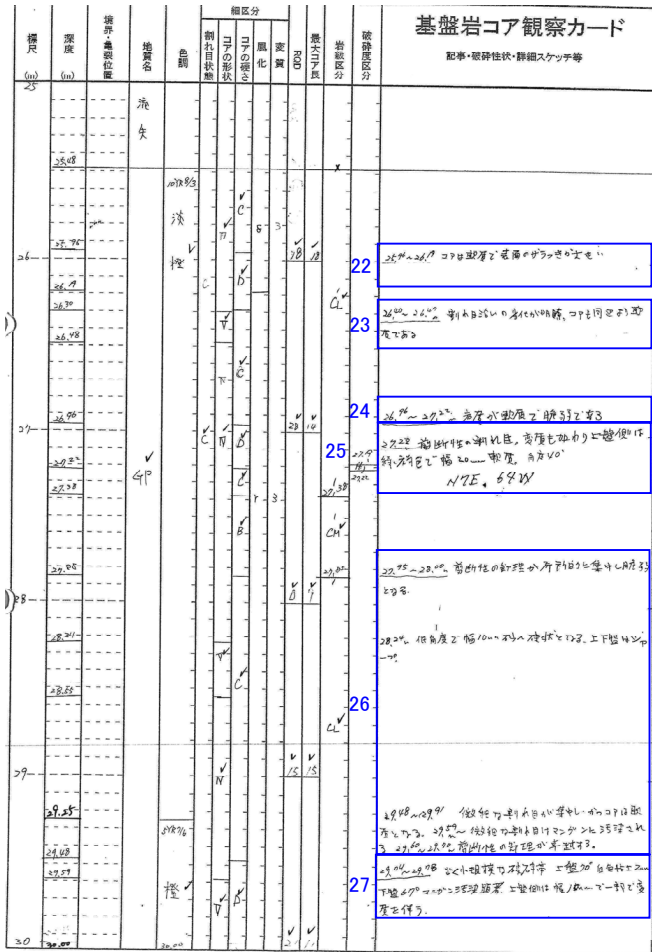
標尺	標高	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア長	率	記事
m	m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	(%)	
		20		花崗斑岩	淡褐色	CL'	100	15	15					・正断層センスである。 ・緑灰~灰白色の粘土状~オリブ黄色の粘土層に礫状を呈する。 ・緑灰~灰白色粘土、集計層3mm ・走向・傾斜はN46° W83° である。 ・上盤境界の傾斜は72°、下盤境界の傾斜は76°である。 16.52~17.03m ・一部礫状を呈する。 17.02~17.85m ・低角度の割れ目が多い。 20.23~20.37m ・割れ目沿いに、一部細礫状を呈する。 20.55~20.65m 20.87~20.94m ・礫状を呈する。 22.47~22.55m ・礫状を呈する。 23.36~23.79m 26.96~27.22m ・軟質である。 ●29.74~29.78m ・破砕部である。カタクレサイトからなる
						CL'	100	9	0					
						CL'	100	5	0					
						CL'	100	11	11					
						CM'	100	7	0					
						CL'	100	5	0					
						CL'	55	5	0					
						CL'	52	18	18					
						CL'	100	14	28					
						CL'	100	9	0					
						CL'	100	15	15					
						CL'	100	11	21					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
16	・20.02mと20.07mの小規模な破砕帯(変質帯)との記載については、連続性に乏しく、原岩組織の残留の程度に周囲と明瞭な差が認められず、周囲の岩盤の劣化に系統性も認められないことから、破砕部ではないものと判断し削除。
17	・変更なし
18	・深度20.56~20.55m⇒20.55~20.65m ^{※3}
19	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・マンガン、変色については、補足的なものであるため削除。
20	・崩壊物も含まれていると思われるとの記載については、孔壁崩壊による岩片を含んでいる可能性を指摘したものであるが、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。
21	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・24.13~24.55mで落下したコアを再採取したものと思われるとの記載については、機械割れによるコアの劣化を指摘したものであるが、ポアホールテレビによる観察結果から、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないため削除。

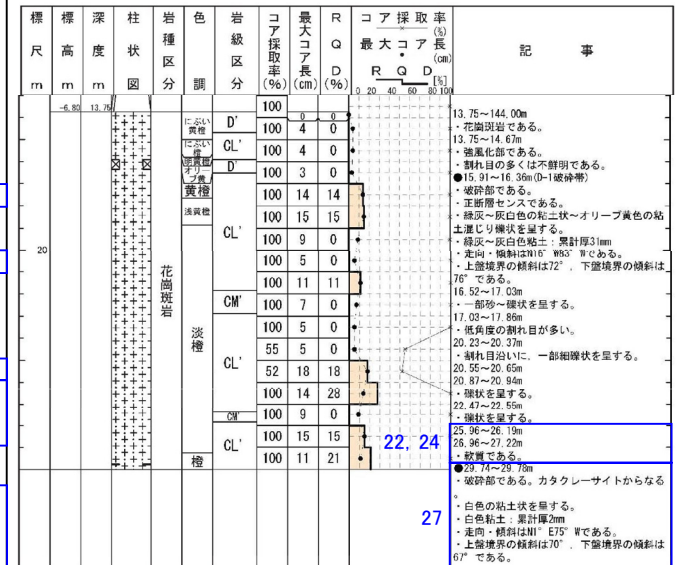
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
22 25.96~26.19m コアは軟質で表面のザラつきが大きい
23 26.40~26.47m 割れ目沿いの劣化が明瞭、コアも周辺より軟質である
24 26.96~27.22m 岩質が軟質で脆弱である
25 27.22m 剪断性の割れ目。変質も加わり上盤側は緑褐色で幅20mm軟質。角度40° N7E.64W
26 27.95~28.00m 剪断性の節理が局所的に集中し脆弱となる
26 28.24m 低角度で幅10mm砂～礫状となる。上下盤はシャープ。
27 29.48~29.91m 微細な割れ目が集中し、かつコアは軟質となる。29.59m～微細な割れ目はマンガンに汚染される
27 29.60~29.70m 剪断性の節理が卓越する。
27 29.74~29.78m ごく小規模な破砕帯 上盤70° 白色粘土2mm下盤67° マンガン汚染顕著。上盤側は幅10mmで一部で変質を伴う。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
22	・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。
23	・割れ目沿いに劣化が明瞭との記載については、当該区間周囲の割れ目と明瞭な差が認められないことから削除。
24	・変更なし
25	・剪断性の割れ目との記載があるが、周囲の岩盤の劣化に系統性が認められないことから削除。
26	・27.95~28.00mで剪断性の節理が局所的に集中との記載、28.24mで砂～礫状となるとの記載については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・29.48~29.91mで割れ目が集中し、軟質となるが、当該区間に含まれる破砕部を除き、原岩組織が残留し、劣化に系統性も認められないことから削除。 ・29.60~29.70mで剪断性の節理が卓越するとの記載については、岩盤の劣化が系統的でないことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
27	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・マンガン汚染については、補足的なものであるため削除。 ・変質については、変質を受けた部分の連続性に乏しいことから削除。

H27-B-4

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層 位置	地層 名称	組成分				観察 項目	備考
				粘土質 シルト質	砂質 シルト質	砂質 粘土質	砂質 砂質		
31	30.10			✓					28
31	30.20			✓					29
31	30.30			✓					30
31	30.40			✓					31
31	30.50			✓					32
31	30.60			✓					33

記事内容
30.10~30.69 低角度の割れ目が優勢である。
30.62~30.73m この間、やや不規則な形状の高角度の割れ目が2条見られ、マンガンが3~5mmの厚さで析出している。
31.77~31.93m やや低角度の微細な割れ目が、ほぼ平行に密集する。
31.87~31.91m 剪断を受ける上盤45° 暗緑灰色の粘土~シルトを3mm伴う。下盤40°。上下盤の間はやや緑色味を帯び軟質である
32.36~32.39m 20° ~30° 程度の剪断性の節理が平行して集中する
32.68~32.73m 30° 程度の節理がほぼ平行して集中する緑レン石の薄い脈が3条見られる
33.00~33.62m 30~50° の割れ目が優勢、割れ目に沿って明瞭な劣化が見られるものが多い。
34.30~34.42m 割れ目が集中し礫~岩片状コアとなる。人為的？ 34.55m付近、局部的(連続しない)に低角度で破碎され細礫状となる

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア	最大	R	コア	記事
m	m	m	図	調	区分	採取率(%)	コア長(cm)	Q (%)	D (%)	最大コア長(cm)
					CL'	100	13	25		29
					CL'	100	12	12		31
					CH'	100	17	27		32
					CH'	100	12	22		31
					CH'	100	14	14		32
					CH'	100	10	10		32
					CH'	100	28	28		31
					CH'	100	22	56		31
					CH'	100	15	29		31
					CH'	100	8	0		31
					CH'	100	6	0		31

31.77~31.93m
・低角度で、ほぼ並行する微細な割れ目が多い

32.36~32.73m
・傾斜30°程度の、ほぼ並行する割れ目が多い

33.00~33.62m
・傾斜30°~50°の割れ目が多い。

35.60~35.78m
・低角度の、ほぼ並行する割れ目が多い。
・割れ目沿いに、一部白色塩物脈を挟む。

36.98~37.10m
・高角度の割れ目に沿って、幅12mm程度砂~細礫状を呈する。

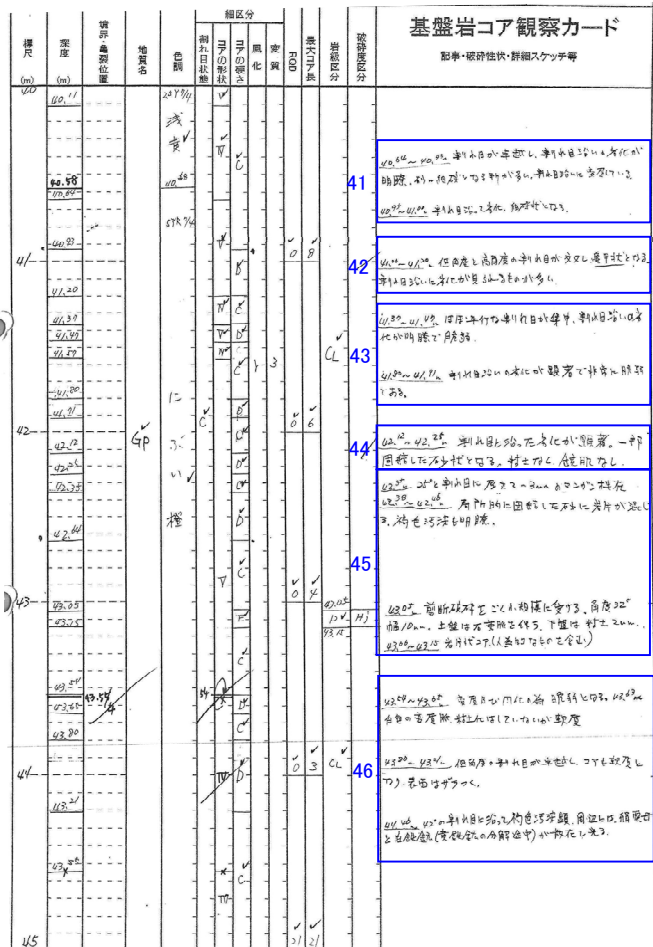
37.36~39.84m
・硬質である。
・主として、短柱~柱状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
28	・割れ目の傾斜、マンガンについては、補足的なものであるため削除。
29	・変更なし
30	・剪断を受けるとの記載、粘土~シルトを伴うとの記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
31	・ほぼ並行する割れ目の分布についてまとめ書き。
32	・割れ目沿いの劣化の程度については、当該区間の周囲との差が明瞭ではないことから削除。
33	・34.30~34.42mで礫~岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・34.55m付近で破碎され細礫状との記載があるが、連続性に乏しいことから削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
41 40.64~40.93m 割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化が明瞭、砂~細礫となる所が多い、割れ目沿いに変質している。 40.95~41.00m 割れ目沿って劣化、細礫状となる。
42 41.00~41.20m 低角度と高角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。割れ目沿いに劣化が見られるものが多い
43 41.37~41.47m ほぼ平行な割れ目が集中、割れ目沿いの劣化が明瞭で脆弱。 41.80~41.91m 割れ目沿いの劣化が顕著で非常に脆弱である。
44 42.12~42.25m 割れ目に沿った劣化が顕著。一部固結した砂状となる。粘土なし、鏡肌なし。 42.35m 25°と割れ目に厚さ2~3mmのマンガン狭帯 42.38~42.46m 局所的に固結した砂に岩片が混じる。褐色汚染も明瞭。
45 43.05m 剪断破碎をごく小規模に受ける。角度32° 幅10mm、上盤は石英脈を伴う。下盤は粘土2mm。 43.06~43.15m 岩片状コア。(人為的なものを含む)
46 43.54~43.65m 変質及び風化の脆弱となる。43.63m白色の変質脈、粘土化はしていないが軟質 43.80~43.21m 低角度の割れ目が卓越し、コアも軟質となり、表面はザラつく。 44.46m 42°の割れ目に沿って褐色汚染頭。周辺には絹雲母と白鉄鉱(黄鉄鉱の分解途中)が散在し光る。

標尺	標高	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア長	記事
m	m	m	図	区分	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
		40			浅黄		100	22	56				36.98~37.10m 高角度の割れ目に沿って、幅12mm程度砂~細礫状を呈する。 37.36~39.84m 硬質である。 ※として、短柱~柱状を呈する。
						CL'	100	15	29				41.00~41.20m 低角度と高角度の割れ目が交叉し、網目状を呈する。
						CL'	100	6	0				42
						CL'	100	4	0				
						CL'	100	3	0				
						CL'	100	21	21				
						CL'	100	8	0				
						CL'	100	10	10				46.10~46.35m 傾斜60°~70°の割れ目が多い。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
41	・40.64~40.93m, 40.95~41.00mで割れ目沿いに砂~細礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
42	・表現の見直し(亀甲状→網目状)
43	・脆弱化や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
44	・割れ目沿いに砂状化するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・鏡肌なしとの記載については、補足的なものであるため削除。
45	・マンガン, 変色, 鉱物脈については、補足的なものであるため削除。 ・42.38~42.46mの一部で砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・43.05mで剪断破碎との記載があるが、劣化部の連続性に乏しいことから削除。 ・43.06~43.15mで岩片状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。
46	・硬軟や割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。 ・変質脈, 割れ目の傾斜, コア表面の粗さ, 変色, 割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。

H27-B-4 コア観察カード (H27年8月)

標尺 (m)	深度 (m)	境界位置 (m)	地質	色調	細区分		RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事
					割れ目の形状 ・長さ ・角度	賦存物				
46	46.00	46.00	SP	灰色	割れ目	賦存物	10	21	CL'	47
47	47.00	47.00	SP	灰色	割れ目	賦存物	10	21	CL'	48
48	48.00	48.00	SP	灰色	割れ目	賦存物	10	21	CL'	49
49	49.00	49.00	SP	灰色	割れ目	賦存物	10	21	CL'	50
50	50.00	50.00	SP	灰色	割れ目	賦存物	10	21	CL'	51
51	51.00	51.00	SP	灰色	割れ目	賦存物	10	21	CL'	52
52	52.00	52.00	SP	灰色	割れ目	賦存物	10	21	CL'	53

コア観察カードの仮ワープロ変換

記事内容
45.10m 剪断性の節理 上盤側は一部巾20mmで脆弱となる。絹雲母が散在し光る。
45.42~45.62m 微細な割れ目が集中し、コアも軟質で表面がザラつく所が多い
45.73~45.80m 割れ目沿いに劣化し、礫状~砂状となる。
46.10~46.35m 60~70°の割れ目が集中する。狭在物の見られる割れ目もあるが、汚染はほとんど見られない。
47.11~47.32m 微細な割れ目が網目状となる。割れ目沿いの劣化も見られ軟質、脆弱となる
47.36~47.53m 高角度と低角度の割れ目が交叉し格子状となる。割れ目の汚染は見られないが砂状の狭在物が見られる。
47.76~ 微細な割れ目が卓越し、脆弱となる。47.76~47.88m間は、割れ目沿いのマンガン汚染が明瞭。
48.38m 破碎帯 上盤52° 下盤45° 幅30mmやや赤味を帯びる
49.18m 剪断性の節理63° 上盤側幅20mm劣化し脆弱となる
49.43m 白色の鉱物脈風化しやや軟質幅4mm角度47°

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	記事
46	46.00		化腐斑岩	灰色	CL'	100	21	21				
47	47.00		にふい橙	灰色	CL'	100	8	0				
48	48.00		にふい橙	灰色	CM'	100	10	10				47.11~47.32m ・微細な割れ目が、網目状に分布する。
49	49.00		にふい橙	灰色	CL'	100	9	0				47.36~47.53m ・高角度と低角度の割れ目が交叉し格子状となる。
50	50.00		にふい橙	灰色	CL'	100	11	21				47.76~47.88m ・マンガン汚染が明瞭。
51	51.00		にふい橙	灰色	CL'	100	6	0				48.38m ・破碎帯である。カタクレーサイトからなる。
52	52.00		にふい橙	灰色	CL'	100	11	11				49.18m ・剪断性の節理である。
53	53.00		にふい橙	灰色	CL'	100	6	0				49.43m ・白色の鉱物脈である。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
47	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・45.10mで剪断性の節理との記載があるが、変位が認められず、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・45.73~45.80mで割れ目沿いに礫状~砂状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
48	・挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
49	・硬軟や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
50	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・47.36~47.53mの一部割れ目に砂状の挟在物を伴うが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
51	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなること記載。 ・“破碎度区分”欄に基づき、48.30~48.33m、粘土状と記載。 ・色調については、“色調”欄に基づき、にふい橙色と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
52	・剪断性の節理との記載があり、割れ目沿いに脆弱化するが、劣化部の連続性に乏しく、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
53	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深度 (m)	境界位置 (m)	地層名	色	割れ目形状	割れ目径 (mm)	割れ目密度	RQD (%)	最大コア長 (cm)	基盤岩コア観察カード	
									記事・破砕性状・詳細スケッチ等	破砕性状
50.00									54	50.07 70° の開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出
50.39									55	50.39~50.60m 劣化しコア全体が軟質、表面は砂状となる所がある。軟質脆弱
50.58									56	50.58~50.92m 白色細脈が不規則に入る。
51.20									57	51.20~51.43m 微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って淡い桃色脈(カリ長石)が見られる所が多い。
51.66									57	51.66~51.97m 微細割れ目が非常に卓越(30~50°)。コアは軟質となる。
51.90									57	51.90m 45° の割れ目沿いに変質した白色鉱物脈厚さ4mm汚色汚染明瞭
52.48									58	52.48~52.44m 微細な割れ目が密集。コアは局所的に礫状となる。上盤側の割れ目に厚さ4mmのマンガン狭にする
52.44									58	52.44~53.35m 低角度の割れ目が卓越、割れ目に沿った褐色汚染は軽微である
53.54									58	53.54~53.59m 割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアの一部は細礫~砂状となる。
53.74									58	53.74mの高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる
54.66									59	54.66~54.73m 50~60° のほぼ平行な割れに沿って劣化。一部礫状となる。褐色汚染も顕著。

記事内容
54 50.07 70° の開口割れ目にマンガン厚さ5mm析出
55 50.39~50.60m 劣化しコア全体が軟質、表面は砂状となる所がある。軟質脆弱
56 50.58~50.92m 白色細脈が不規則に入る。
57 51.20~51.43m 微細な割れ目が卓越し亀甲状となる。割れ目に沿って淡い桃色脈(カリ長石)が見られる所が多い。
57 51.66~51.97m 微細割れ目が非常に卓越(30~50°)。コアは軟質となる。
57 51.90m 45° の割れ目沿いに変質した白色鉱物脈厚さ4mm汚色汚染明瞭
58 52.48~52.44m 微細な割れ目が密集。コアは局所的に礫状となる。上盤側の割れ目に厚さ4mmのマンガン狭にする
58 52.44~53.35m 低角度の割れ目が卓越、割れ目に沿った褐色汚染は軽微である
58 53.54~53.59m 割れ目沿いの劣化が明瞭で、コアの一部は細礫~砂状となる。
58 53.74mの高角度の割れ目に沿って劣化し、一部細礫状となる
59 54.66~54.73m 50~60° のほぼ平行な割れに沿って劣化。一部礫状となる。褐色汚染も顕著。

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	記事
	50.00					100	6	0	*				・にぶい褐色の粘土状を呈する。 ・にぶい褐色粘土：異径厚30mm ・走向・傾斜はN48° E78° Eである。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は45°である。 ・50.43~50.60m ・軟質である。 ・51.20~51.43m ・51.66~51.97m ・52.39~52.44m ・54.96~55.55m ・低角度の割れ目が多い。 ・55.45~56.61m ・高角度と高角度の割れ目が交差し、網目状を呈する。
	50.39				CL'	100	11	11	*			55	
	50.58					100	6	0	*			56	
	51.20				CL'	100	4	0	*			57	
	51.66					100	9	0	*			57	
	51.90					100	7	0	*			57	
	52.48				CL'	100	10	10	*			58	
	52.44					100	6	0	*			58	
	53.54				CM	100	19	32	*			58	
	53.74					100	32	44	*			58	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
54	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
55	・表面は砂状との記載については、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・50.39mとの記載があるが、劣化が顕著な区間として、50.43~50.60mと記載。
56	・鉱物脈については、補足的なものであるため削除。
57	・鉱物脈、マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、区間毎にばらつきがあることから削除。
58	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・53.55~53.59mで細礫~砂状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・53.74mの割れ目沿いで細礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。
59	・一部が礫状化しているが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。

H27-B-4

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地質名	色	細区分				最大コア長	破砕度区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目の有無	割れ目の方向	割れ目の長さ	割れ目の幅			
55									60	54.96~55.55m 低角度の割れ目が非常に卓越する
									61	55.56m 50°の割れ目間に厚さ8mmで砂が狭在する。褐色汚染も明瞭である。
									62	56.45~56.61m 高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。 56.74m 71°の割れ目に褐色粘土厚さ3mm狭在 56.88~56.98m 約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越、一部礫状コアとなる。
									63	57.24~58.50m この間多くの割れ目に褐色汚染が見られる
									64	57.54~57.74m 割れ目沿いに劣化。軟質脆弱。
									65	58.06~58.71m 砂状の挟在物が見られる割れ目が多いが岩質は硬い。
									66	59.02~59.34m 潜在的なものを除き、割れ目のない柱状コア岩質も硬い

記事内容
60 54.96~55.55m 低角度の割れ目が非常に卓越する
61 55.56m 50°の割れ目間に厚さ8mmで砂が狭在する。褐色汚染も明瞭である。
62 56.45~56.61m 高角度と低角度の割れ目が交叉し亀甲状となる。 56.74m 71°の割れ目に褐色粘土厚さ3mm狭在 56.88~56.98m 約50°のほぼ平行した微細な割れ目が卓越、一部礫状コアとなる。
63 57.24~58.50m この間多くの割れ目に褐色汚染が見られる
64 57.54~57.74m 割れ目沿いに劣化。軟質脆弱。
65 58.06~58.71m 砂状の挟在物が見られる割れ目が多いが岩質は硬い。
66 59.02~59.34m 潜在的なものを除き、割れ目のない柱状コア岩質も硬い

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア率	記事
m	m	m	図	調	分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(%)	
55						100	6	0	*			・にぶい褐色の粘土状を呈する。 ・にぶい褐色粘土、厚さ約30mm ・走向・傾斜は48° E70° Eである。 ・上盤境界の傾斜は52°、下盤境界の傾斜は45°である。 ・50.43~50.60m ・軟質である。 ・51.20~51.40m ・51.66~51.97m ・52.38~52.44m ・微細な割れ目が多い。 ・低角度の割れ目が多い。 ・56.45~56.61m ・低角度と高角度の割れ目が交叉し、網目状を呈する。
					CL	100	11	11	*			
					CL	100	6	0	*			
					CL	100	4	0	*			
					CL	100	9	0	*			
					CL	100	7	0	*			
					CL	100	10	10	*			
					CL	100	6	0	*			
					CM	100	19	32	*			
					CL	100	32	44	*			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
60	・変更なし
61	・割れ目に砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
62	・表現の見直し(亀甲状→網目状)
63	・56.74mで粘土を挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・56.88~56.98mで一部礫状を呈するが、掘削時の機械割れと判断し削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
64	・割れ目沿いに軟質化するが、挟在物の連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
65	・一部割れ目に砂状の挟在物を伴うが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
66	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

標尺 (m)	深度 (m)	境界位置	地質名	細区分		色調	割れ目形状	割れ目径	風化	RQD	最大コア長	岩級区分	破砕区分	基盤岩コア観察カード	
				記事・破砕性状・詳細スケッチ等											
65	65.59												75	65.59~65.72m 破砕帯される。110mm砂~礫状 65.59m 65° 上盤 65.72m 62° 下盤 部分的に灰白色粘土2~3mm明瞭なガウジは無い。	
66	66.30												76	66.30~67.28m 割れ目が卓越し、やや脆弱であるが褐色汚染は見られない。 66.30~67.28m 割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著。 66.97~67.28m 割れ目が交叉し、細かい亀甲状となる。	
67	67.28												77	67.28~67.78m 変質部。軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。	
68	68.07												78	68.07m~ 割れ目が卓越しコアも軟質で表面はザラつく。 68.70m 30°の割れ目、黄褐色粘土を厚さ8mm挟む	
69	69.08												79	69.08~69.08m 細礫~砂状コア。粘土なし。	
70	70.00												80	69.28~69.33m 割れ目沿いに劣化。細礫状となる 69.63~69.77m 高角度と低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭 69.85~70.00 割れ目密集、岩片状コア	

記事内容
65.59~65.72m 破砕帯される。110mm砂~礫状 65.59m 65° 上盤 65.72m 62° 下盤 部分的に灰白色粘土2~3mm明瞭なガウジは無い。
66.30~67.28m 割れ目が卓越し、やや脆弱であるが褐色汚染は見られない。 66.30~67.28m 割れ目沿いに褐色汚染が見られる。特に66.80~66.95mの60~70°の高角度の割れ目沿いは顕著。 66.97~67.28m 割れ目が交叉し、細かい亀甲状となる。
67.28~67.78m 変質部。軟質でやや赤味を帯びた灰白色を呈す。割れ目は不明瞭となる。粘土化進む。
68.07m~ 割れ目が卓越しコアも軟質で表面はザラつく。 68.70m 30°の割れ目、黄褐色粘土を厚さ8mm挟む
69.08~69.08m 細礫~砂状コア。粘土なし。
69.28~69.33m 割れ目沿いに劣化。細礫状となる 69.63~69.77m 高角度と低角度の割れ目が交叉。高角度の割れ目沿いに劣化が明瞭 69.85~70.00 割れ目密集、岩片状コア

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級	コア採取率	最大コア長	R	Q	D	最大コア	記事
m	m	図	区分		区分	(%)	(cm)	(%)	(%)	(%)	(cm)	
				黄		100	6	0				63.90~64.30m ・変質している。 ・軟質化しており、割れ目は不鮮明である。
				褐灰	CL'	100	4	0				64.65~64.91m ・破砕部である。 ・正断層センスである。 ・褐灰色の粘土状~にぶい橙色の粘土混じり塊状を呈する。 ・走向・傾斜はN44°E77°である。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。
				灰青	CL'	100	3	0				66.50~66.72m ・破砕部である。カタクレーサイトからなる
				灰白	CL'	100	3	0				67.28~67.75m ・変質している。 ・灰白色を呈し、粘土化している。
				淡	CL'	100	9	0				69.97~69.08m ・砂~細礫状を呈する。
					CL'	100	5	0				74.18~74.34m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。
					CL'	100	8	0				
					CL'	100	7	0				
					CL'	100	6	0				
					CL'	100	8	0				
					CL'	100	6	0				
					CL'	100	13	13				
					CL'	100	14	14				

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
75	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・“色調”欄に基づき、褐灰色と記載。 ・粘土の累計幅については、最大値を記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。
76	・割れ目の発達や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
77	・下端深度67.78m⇒67.75m ^{※3} ・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・割れ目の明瞭さについては、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。
78	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・68.70mで粘土を挟むが、連続性や直線性に乏しいことから削除。
79	・変更なし
80	・69.28~69.33mで割れ目沿いに細礫状を呈するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

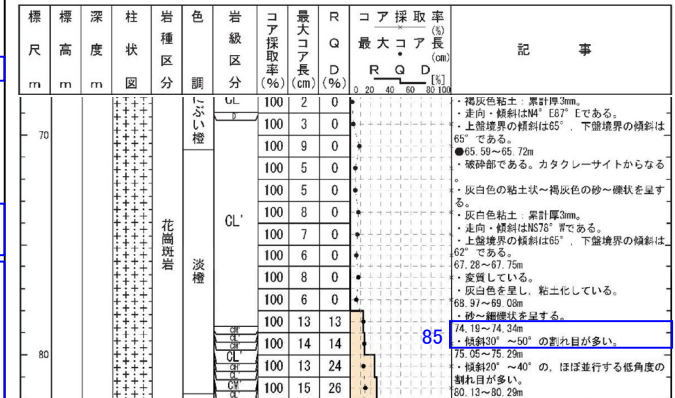
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層 名	地質 記号	細区分				岩種 区分	岩質 区分	破砕 区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				崩れ 性状	崩れ 方向	崩れ 長さ	崩れ 幅				
70	70.06	Gp	淡	C	D	Q	R	CL	81	70.06m付近 60° 幅20mm~30mmで局所的に弱く破砕され脆弱となる。	
71	71.22									71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。	
72	72.33									71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。	
73	72.33									72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。	
74	73.56									73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む	
75	74.16	74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱									

記事内容
81 70.06m付近 60° 幅20mm~30mmで局所的に弱く破砕され脆弱となる。
82 71.22m 60°、71.25m 54° 剪断性の割れ目(節理)。この間、幅20~30mm脆弱となる。
83 71.25~72.73m この間やや軟質でコア表面はザラつく。
83 72.33m 32° の割れ目間に、一見腐植土のようなマンガンに汚染された細粒物と破砕物と思われる暗緑灰色の固い砂状のものを挟む。厚さ8~15mm。
84 73.56m 65° の割れ目に暗褐色に汚染されたシルト質の砂を4~10mm挟む
85 74.16~74.34m 30~50° の割れ目が密集する。脆弱



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
81	・弱く破砕され脆弱との記載については、せん断構造や変形構造が不明瞭で、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
82	・剪断性の割れ目との記載があり、割れ目間で脆弱化しているが、周囲の岩盤と明瞭な差が認められないことから削除。
83	・硬軟については、岩級区分に含めて示しているため削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。 ・72.33mで破砕物と思われるとの記載があるが、割れ目に挟在する砂状部は硬質で、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
84	・シルト質砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
85	・脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目が特に密集する区間として、74.19~74.34mと記載。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深尺 (m)	深層 (m)	地層 名	地質 記号	細区分				RQD	最大 コア長 (cm)	岩 質 記号	基盤岩 コア観察カード 記号・破砕性状・詳細スケッチ等
				崩れ	割れ目	結核	その他				
75										86 26.50~26.21 20~40°の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する	
76										87 25.77~26.25 割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。	
77										88 27.48~27.67 割れ目特に低角度のもの沿いに劣化が見られコアは軟質となりザラつく	
78										89 77.96~78.08 割れ目に沿って劣化が見られ砂状の狭在物が明瞭。	
										90 78.21~78.51 多方向の割れ目が卓越し、やや脆弱	
79										91 79.45~79.52m マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多く、この筋上に割れ目として認識できるものは少ない	

記事内容	
86	75.05~75.29m 20~40°の低角度の割れ目がほぼ平行して卓越する
87	75.77~76.25m 割れ目沿いに劣化が見られ、やや脆弱となる。
88	77.48~77.67 割れ目特に低角度のもの沿いに劣化が見られコアは軟質となりザラつく
89	77.96~78.08m 割れ目に沿って劣化が見られ砂状の狭在物が明瞭。
90	78.21~78.51m 多方向の割れ目が卓越し、やや脆弱
91	79.45~79.52m マンガンの短い筋状の汚染が多数見られる。高角度のものが多く、この筋上に割れ目として認識できるものは少ない

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア	最大	R	コア	最大	記事
m	m	図	区分	調	区分	採取率 (%)	コア長 (cm)	Q	採取率 (%)	コア長 (cm)	
70			花崗斑岩	淡橙	CL	100	2	0	0	0	・補灰包粘土、累計厚3mm。 ・走向・傾斜はN47°E67°である。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は65°である。 ・破砕部である。カタクレサイトからなる。 ・灰白色の粘土状~褐色の砂~礫状を呈する。 ・灰白色粘土、累計厚3mm。 ・走向・傾斜はN57°E7°である。 ・上盤境界の傾斜は65°、下盤境界の傾斜は62°である。 ・67.28~67.75m ・変質している。 ・灰白色を呈し、粘土化している。 ・68.37~69.08m ・砂~礫層状を呈する。 ・74.18~74.34m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。 75.05~75.29m ・傾斜20°~40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。 80.13~80.29m
					CL	100	3	0	0	0	
					CL	100	9	0	0	0	
					CL	100	5	0	0	0	
					CL	100	5	0	0	0	
					CL	100	8	0	0	0	
					CL	100	7	0	0	0	
					CL	100	6	0	0	0	
					CL	100	8	0	0	0	
					CL	100	6	0	0	0	
80					CL	100	13	13	0	0	
					CL	100	14	14	0	0	
					CL	100	13	24	0	0	
					CL	100	15	26	0	0	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
86	・変更なし
87	・脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
88	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・コア表面の粗さについては、補足的なものであるため削除。
89	・割れ目沿いに劣化し、一部で砂状を呈するが、連続性や直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
90	・割れ目の発達や脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
91	・マンガンの割れ目の傾斜については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界位置	地層	割れ目状態		風化	硬軟	RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事
				割れ目状態	割れ目状態						
80	80.13			+	+						92
	80.29			+	+						93
	80.51			+	+						94
81	81.30			+	+						95
	81.76			+	+						
82	82.08			+	+						96
	82.32			+	+						
83	83.08			+	+						97
	83.32			+	+						
84	84.09			+	+						
	84.39			+	+						
85	85.58			+	+						

記事内容
92 80.13~80.29m 35~55° の同方向の割れ目が密集する
93 80.29~80.51m 割れ目の頻度はやや少なくなるが、割れ目沿いの劣化は明瞭
94 80.51~81.02m 割れ目には挟在物が見られるものが多いが、岩質は硬い
95 81.30~81.96m 割れ目の挟在物も薄く、岩質も硬質。高角度の微細な割れ目が見られるが、完全に密着している
96 83.08~83.32m 割れ目に沿った褐色汚染が明瞭。汚染は、割れ目沿いのみならずコアの半分程度に及ぶ
97 84.09~84.77m 割れ目が卓越し、岩質も軟質となる。特に84.39~85.58間は劣化が進み、脆弱

標尺	深度	柱状	岩種	色	岩級	コア採取率	最大コア長	R	最大コア長	コア採取率	記事
m	m	図	区分	調	区分	(%)	(cm)	(%)	(cm)	(%)	
80					CL	100	13	13			・砂~細礫状を呈する。 74.19~74.56m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。 75.05~75.29m ・傾斜20°~40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。 80.13~80.29m ・傾斜35°~55°の、同方向の割れ目が多い 83.32~84.05m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。 84.09~84.77m ・割れ目が多く、軟質化している。 86.14~88.26m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。 89.27~89.46m ・微細な割れ目が多い。
					CL	100	14	14			
					CL	100	13	24			
					CL	100	15	26			
					CM	100	13	13			
					CL	100	12	34			
					CM	100	8	0			
					CL	100	9	0			
					CM	100	13	23			
					CM	100	23	62			
					CL	100	13	24			
					CL	100	8	20			

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
92	・変更なし
93	・割れ目の発達については、RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
94	・割れ目の挟在物については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
95	・割れ目の挟在物, 割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。 ・高角度の割れ目については、連続性に乏しいことから削除。
D	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質, “コアの形状”欄に基づき, 短柱~柱状と記載。
96	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
97	・84.39~85.58mで劣化が進行しているが、劣化に系統性は認められないことから、84.09~84.77mの記載に含めて示すこととして削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深尺 (m)	深度 (m)	境界・異層位置	地質名	割れ目 時期	割れ目 性状		RQD	最大コア長	岩級区分	破砕帯区分	基盤岩コア観察カード 記事・破砕性状・異層スケッチ等
					開口率	開口率					
85											
85.77									98		85.73~85.97m 高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が卓越 岩片状となる。
86.77									99		86.73~86.83m 上下の割れ目(節理)に挟まれた区間で局所的に砂~礫状となる
87.96									100		86.96m~88.03 割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、狭在物はほとんど見られない。岩質も硬い。
88.96									101		88.96m 45°の割れ目の下盤側劣化し局所に非常に脆弱 上盤側は巾20mmマンガンの汚染がコアに明瞭
89.27									102		89.27~89.44m 微細な割れ目が卓越する。コアも幾分軟質

記事内容
98 85.73~85.97m 高角度の2条の割れ目に挟まれた範囲で割れ目が卓越 岩片状となる。
99 86.73~86.83m 上下の割れ目(節理)に挟まれた区間で局所的に砂~礫状となる
100 86.96m~88.03 割れ目面や割れ目沿いは、褐色やマンガンの汚染が明瞭であるが、狭在物はほとんど見られない。岩質も硬い。
101 88.96m 45°の割れ目の下盤側劣化し局所に非常に脆弱 上盤側は巾20mmマンガンの汚染がコアに明瞭
102 89.27~89.44m 微細な割れ目が卓越する。コアも幾分軟質

標尺 mm	標高 mm	深度 mm	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R (%)	D (%)	コア採取率 (%)			記事
											R	Q	D	
							100	13	13					・砂~礫状を呈する。 74.18~74.34m ・傾斜30°~50°の割れ目が多い。 75.05~75.29m ・傾斜20°~40°の、ほぼ並行する低角度の割れ目が多い。 80.13~80.29m ・傾斜35°~55°の、同方向の割れ目が多い 83.32~84.05m ・硬質であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。 84.09~84.77m ・割れ目が多く、軟質化している。 86.14~88.26m ・硬質である。 ・主として、柱状~長柱状を呈する。 89.27~89.44m ・微細な割れ目が多い。
							100	14	14					
							100	13	24					
							100	15	26					
							100	13	13					
							100	12	34					
							100	8	0					
							100	9	0					
							100	13	23					
							100	23	62					
							100	13	24					
							100	8	20					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
98	・割れ目の発達については、RQD,最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
E	・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・“コアの形状”欄を見直すとともに最大コア長を踏まえ、柱状~長柱状と記載。
99	・砂~礫状については、掘削時の機械割れと判断し削除。
100	・割れ目の変色、マンガン、狭在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。
101	・非常に脆弱との記載があるが、劣化部の連続性に乏しいことから削除。 ・マンガンについては、補足的なものであるため削除。
102	・硬軟については、岩級区分に含めて示していることから削除。

コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地層・地質 位置	地層 名称	組区分				RQD	最大コア長 (cm)	破砕度区分	記事
				割れ目の 形状	割れ目の 長さ	割れ目の 間隔	割れ目の 方向				
90											
91	90.75			100%			100	17	103	90.75~91.96m 微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50°以下の低角度の顕在化した割れ目に切られるものが多い。	
	91.45						100	6	103	91.45m 48° 剪断性の割れ目(節理)、幅6mmで幾分破砕され、緑色味を帯びる	
92											
	92.55						100	14	104	92.55~92.71m 高角度と低角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。岩質もやや軟質である。	
93											
	93.13						100	3	105	93.13~93.22m 破砕帯	
	93.22						100	5	106	93.13m 上盤30° 粘土12mm主 93.22m 下盤50° 粘土なし、上盤の下側50mm軟質で粘土脈が見られる。	
94											
	94.38						100	11	107	94.38~94.40m 剪断性の節理2条、割れ目沿いに劣化し脆弱となる。	
95											

記事内容
90.75~91.96m 微細な高角度の割れ目が卓越する。高角度の割れ目は、50°以下の低角度の顕在化した割れ目に切られるものが多い。
91.45m 48° 剪断性の割れ目(節理)、幅6mmで幾分破砕され、緑色味を帯びる
92.55~92.71m 高角度と低角度の割れ目が交叉し、亀甲状となる。岩質もやや軟質である。
93.13~93.22m 破砕帯
93.13m 上盤30° 粘土12mm主 93.22m 下盤50° 粘土なし、上盤の下側50mm軟質で粘土脈が見られる。
94.38~94.40m 剪断性の節理2条、割れ目沿いに劣化し脆弱となる。

標尺 (m)	深度 (m)	柱状 図	岩種 区分	色調	岩級 区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R D (%)	最大コア長 ・ R Q D (%)	コア採取率 (%)	記事
					CM'	100	17	17			
					CL'	100	6	0			
					CL'	100	14	14			
					CL'	100	3	0			
					CL'	100	6	0			
					CL'	100	3	0			
					CL'	100	11	11			
					CL'	100	5	0			
					CL'	100	9	0			

●93.13~93.22m
・破砕部である。
・右ずれ正断層センスである。
・明緑灰色の粘土状～浅黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。
・明緑灰色粘土：需針厚12mm。
・走向・傾斜はN10° E78° Wである。
・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は50°である。
97.10~97.58m
97.81~98.03m
・割れ目が多く、砂礫状を呈する。

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
103	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目に切られるとの記載、91.45mの剪断性の割れ目との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
104	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
105, 106	・薄片観察の結果で得られた最新活動面の変位センスを記載。 ・粘土区間以外の粒度について、見直しにより、粘土混じり礫状と記載。 ・“色調”欄に基づき、浅黄褐色と記載。 ・粘土の色調については、見直しにより明緑灰色と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・粘土脈については、いずれも連続性に乏しいことから削除。
107	・94.38~94.40mで割れ目沿いに脆弱化しているが、劣化部の直線性や連続性に乏しいことから削除。

コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	地質名	色調	細区分				RQD	最大コア長 (cm)	記事・破砕性状・詳細スケッチ等
				割れ目性状	風化	実質	割れ目性状			
95.08	95.08	GR	浅黄褐色	D	V	V	V	108	95.08~95.37 35~60°の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。	
95.65	95.65~95.75m 劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し(熱水の影響)光る。									
96.20	96.20~96.32 30°の剪断性の割れ目(節理)。幅30~40mmで脆弱、軟質となり弱い破砕を受ける一部緑色味を帯びる									
97.10	97.10~97.58m, 97.81~98.03m 割れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる									
98.02	98.02~98.27m 短柱状~岩片状コア。割れ目に沿った劣化が顕著。									
99.05	99.05~99.10m 局所的に劣化が進み礫状となる。汚染も顕著 99.10m付近 輝沸石が明瞭に見られる									

記事内容
108 95.08~95.37 35~60°の平行した割れ目に沿って弱い変質作用を受ける。割れ目沿いはやや緑色味を帯びる。 95.65~95.75m 劣化し脆弱となる。輝沸石が散在し(熱水の影響)光る。
109 96.20~96.32 30°の剪断性の割れ目(節理)。幅30~40mmで脆弱、軟質となり弱い破砕を受ける一部緑色味を帯びる
110 97.10~97.58m, 97.81~98.03m 割れ目が著しく卓越し、粗砂と岩片が入り混じった状態のコアとなる
111 98.02~98.27m 短柱状~岩片状コア。割れ目に沿った劣化が顕著。
112 99.27~99.53m 柱状~短柱のコアとして採取されるが密着した微細な割れ目が非常に多く、軟質でコア表面はザラつく。
113 99.05~99.10m 局所的に劣化が進み礫状となる。汚染も顕著 99.10m付近 輝沸石が明瞭に見られる

標尺	深度	柱状	岩種	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD (%)	記事
100	95.08	+	+	+	CL'	100	14	14	●93.13~93.22m 破砕部である。必ず正断層センスである。 ・明緑灰色の粘土~浅黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・明緑灰色粘土：累計厚12mm。 ・走向：傾斜はN10°E70°Wである。 ・上盤境界の傾斜は30°、下盤境界の傾斜は50°である。 97.10~97.58m 97.81~98.03m ・割れ目が多く、砂礫状を呈する。
	95.65	+	+	+	CL'	100	13	13	
	96.20	+	+	+	CL'	100	3	0	
	96.27	+	+	+	CL'	100	6	0	
	96.32	+	+	+	CL'	100	3	0	
	97.10	+	+	+	CL'	100	11	11	
	97.81	+	+	+	CL'	100	5	0	
	98.03	+	+	+	CL'	100	9	0	
	98.27	+	+	+	CL'	100	14	14	
	99.05	+	+	+	CL'	100	11	11	

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
108	<ul style="list-style-type: none"> 脆弱化の程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 割れ目沿いの色調、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
109	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目沿いに軟化し、弱い破砕を受けるとの記載があるが、連続性や直線性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 色調については、補足的なものであるため削除。
110	<ul style="list-style-type: none"> 粗砂と岩片が入り混じったとの記載に基づき、砂礫状と記載。
111	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分に含めて示しているため削除。
112	<ul style="list-style-type: none"> 割れ目の発達程度については、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
113	<ul style="list-style-type: none"> 鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 一部で礫状を呈するが、連続性に乏しいことから削除。

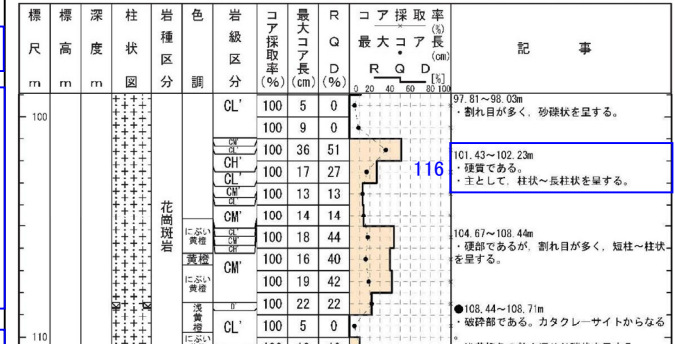
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

基礎岩コア観察カード									
記事・破砕性状・顕微スケッチ等									
深尺	深度	地層・地層区分	地層名	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状	割れ目性状
(m)	(m)								
100									
101									
102									
103									
104									
105									

記事内容
114 100.28m、100.30m 50°～55°の割れ目中に砂状の破砕物を厚さ2～4mm挟む。褐色汚染明瞭
115 100.45m 25°の低角度割れ目の周辺に鮮やかな青色の変質鉱物が見られる。この鉱物は塩酸で溶けないことから孔雀石ではなく、珪孔雀石の可能性はある。
116 101.31～101.43m 低角度を主体としたの割れ目が集中。割れ目沿いの劣化も明瞭、一部局所的に礫状となる。
117 101.43～102.23m 柱状～長柱状のコアが主体。岩質も堅硬である。
118 102.23～102.37m 割れ目がやや卓越。102.23m、102.25mは剪断性の節理で、割れ目沿いの劣化が明瞭
119 103.40～103.55m 高角度主体の微細な割れ目が卓越する
120 104.03～104.17m 50°～60°の剪断性の割れ目(節理)が卓越する
120 104.50～104.90m コアは斑状の褐色汚染が明瞭である。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
114	・割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。 ・一部で砂を挟み、破砕物との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
115	・割れ目沿いの変色、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。 ・101.31～101.43mの一部で礫状を呈するが、礫状部の連続性に乏しいことから削除。
116	・変更なし
117	・102.23mと102.25mで剪断性の節理との記載があり、割れ目間で劣化しているが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
118	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
119	・割れ目の傾斜については、周囲の割れ目と差異が認められないため削除。 ・剪断性の割れ目との記載があるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
120	・変色については、補足的なものであるため削除。

H27-B-4 コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 亀裂位置	地質名	色調	割れ目 の状況	RQD	最大コア 長	破砕度 区分	基礎岩コア観察カード	
									記事・破砕性状・詳細スケッチ等	
105	105.08								121	105.08~105.80m 柱状コアが主体で岩質も堅硬。
106	106.31								122	106.31~106.38m 局所的に割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化も僅かに見られる。
107	106.58								123	106.58~106.92m コアに斑状の褐色汚染が見られる
108	106.87								124	106.87m 30°の割れ目に、汚染されて褐色となった砂~シルトが厚さ3mmで挟在する
109	107.47								125	107.47~108.34m 堅硬な柱状コアが主体。割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが挟在物はほとんど見られない
109	108.44								125	108.44~108.71m 弱い剪断破壊を受け、コアは軟質となる。割れ目も若干不鮮明となる。 108.67~108.71m 褐色汚染が明瞭、褐色の軟質な基質に礫状部が点在する。
109	108.71								126	108.71~109.79m 割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られやや脆弱である。108.71~108.90m 2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。

記事内容	
121	105.08~105.80m 柱状コアが主体で岩質も堅硬。
122	106.31~106.38m 局所的に割れ目が集中する。割れ目沿いの劣化も僅かに見られる。
123	106.58~106.92m コアに斑状の褐色汚染が見られる
124	106.87m 30°の割れ目に、汚染されて褐色となった砂~シルトが厚さ3mmで挟在する
125	107.47~108.34m 堅硬な柱状コアが主体。割れ目やコア表面にマンガンと褐色汚染が見られるが挟在物はほとんど見られない
125	108.44~108.71m 弱い剪断破壊を受け、コアは軟質となる。割れ目も若干不鮮明となる。 108.67~108.71m 褐色汚染が明瞭、褐色の軟質な基質に礫状部が点在する。
126	108.71~109.79m 割れ目が卓越し、割れ目沿いの劣化も見られやや脆弱である。108.71~108.90m 2方向の割れ目が明瞭で、格子状となる。

標尺	深度	柱状	岩種区分	色調	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	R	Q	D	最大コア長 (cm)	採取率 (%)	記事
110	104.67		花崗斑岩	黄褐色	GM'	100	14	14					104.67~108.44m ・礫部であるが、割れ目が多く、短柱~柱状を呈する。
	106.31		花崗斑岩	黄褐色	GM'	100	18	44					108.44~108.71m ・礫部である。カタクレーサイトからなる
	106.58		花崗斑岩	黄褐色	GM'	100	16	40					・浅黄褐色の粘土混じり礫状を呈する。 ・5方向・傾斜法20° E87° Eである。
	106.87		花崗斑岩	黄褐色	GM'	100	19	42					
	107.47		花崗斑岩	黄褐色	CL'	100	22	22					125
	108.44		花崗斑岩	黄褐色	GM'	100	10	10					
	108.71		花崗斑岩	黄褐色	GM'	100	16	16					

記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
121	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
F	・“コアの硬さ”欄及び“コアの形状”欄に基づき、硬部、短柱~柱状と記載。
122	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
123	・砂~シルトを挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
124	・硬軟や割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・マンガン、変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。
125	・カタクレーサイト主体であると判断したことから、カタクレーサイトからなると記載。 ・“色調”欄に基づき、浅黄褐色と記載。 ・“破砕度区分”欄のHjに基づき、粘土混じり礫状と記載。 ・ポアホールテレビの解析結果による最新活動面の走向・傾斜を記載。 ・破砕部の硬軟については、申請書では記載しないこととしているため削除。 ・割れ目の残留の程度については、岩盤の劣化に関する補足的なものであるため削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
126	・割れ目の発達については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

H27-B-4

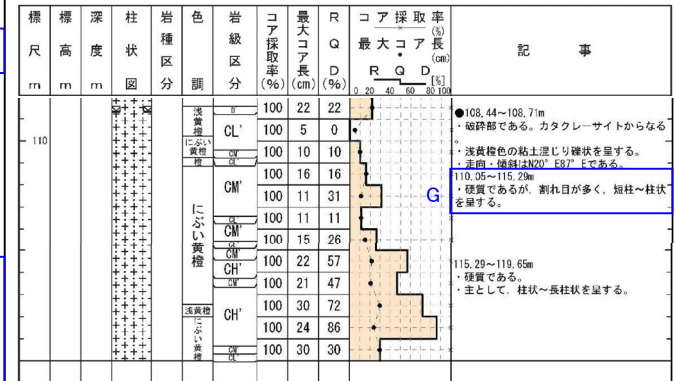
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

標尺 (m)	深度 (m)	境界 種類 記号	地質 記号	色調	細区分		RQD	最大コア長 (cm)	岩級区分	記事
					割れ目の形状	割れ目の長さ				
110	110.03									127
	110.05									
	110.08									
	110.15									
111	111.05									128
	111.15									
	111.25									
112	112.05									
	112.15									
	112.25									
113	113.05									129
	113.15									
	113.25									
114	114.57									130
	114.65									

記事内容	記事
110.03~110.78m 微細な割れ目が集中する所もあるが、コアは硬く、割れ目も多くは密着している	127
111.57m付近 局所的に割れ目面が鮮やかな青緑色に変色している	128
112.84~113.03m高角度の割れ目が優勢である。シャープな割れ目は見られないが狭在物は無く、弱い褐色染が認められる	
113.41~113.54m 割れ目がやや卓越する113.43mの割れ目沿いに劣化が見られ幅5~30mm軟質脆弱となる。	129
114.57~114.76m 割れ目が卓越する114.60~114.66mの間40°程度の平行した割れ目が密集、114.73m付近は礫~岩片状となる。	130



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
127	・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。 ・割れ目の密着状態については、補足的なものであるため削除。
G	・“コアの硬さ”欄に基づき、硬質と記載。 ・“コアの形状”欄に基づき、短柱状と記載。一部でより割れ目間隔の大きな区間が分布することから、柱状と記載。
128	・割れ目の変色、挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。 ・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。
129	・割れ目については、掘削時の機械割れと判断し削除。
130	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示していることから削除。

H27-B-4

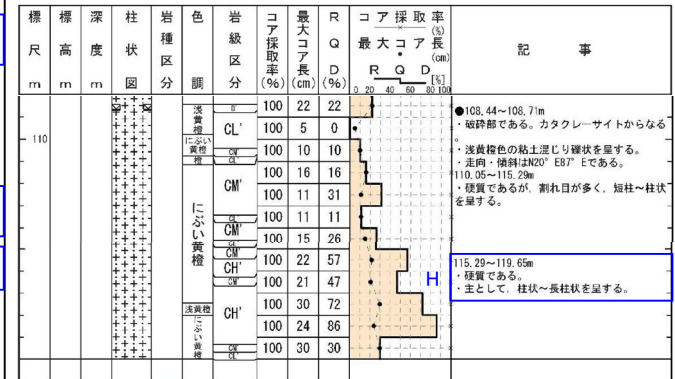
コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図

深尺 (m)	深度 (m)	境界 位置	地層 名称	割れ目 状態	割れ目 形状	割れ目 色	個区分		RQD	最大 コア長 (cm)	岩級 区分	硬質 区分	記事
							コアの 形状	割れ目 色					
115.40	115.47												131 115.40~115.54m 115.46m付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。
116.30	116.36												132 116.30m 57°の割れ目間に厚さ5mmの褐色に汚染された砂状の狭在物が見られる
116.52	116.92												133 116.52~119.32 柱状~長柱状の堅硬なコアが主体となる
117.83	117.92												134 117.83m 50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる(緑泥石化作用)割れ目の周囲には輝沸石が生じている。
119.65	119.83												135 119.65~119.83m 割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂~シルト状の狭在物が見られる

記事内容	
131	115.40~115.54m 115.46m付近の2条の潜在的な割れ目を中心に褐色汚染が明瞭。黄鉄鉱の分解により生じた水酸化鉄である。
132	116.30m 57°の割れ目間に厚さ5mmの褐色に汚染された砂状の狭在物が見られる
133	116.52~119.32 柱状~長柱状の堅硬なコアが主体となる
134	117.83m 50°の割れ目に沿って熱水変質が見られ、やや緑色味を帯びる(緑泥石化作用)割れ目の周囲には輝沸石が生じている。
135	119.65~119.83m 割れ目がやや卓越する。割れ目面には、マンガン及び褐色の汚染が明瞭で、一部の割れ目面には砂~シルト状の狭在物が見られる

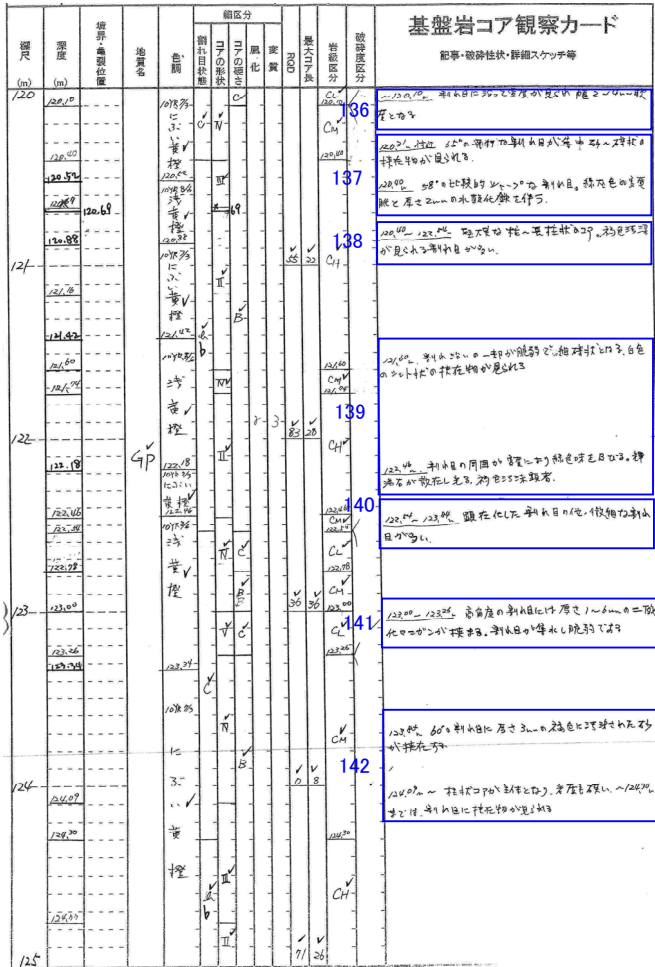


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
H	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質, “コアの形状”欄に基づき柱状~長柱状と記載。
131	・割れ目の変色, 鉱物の晶出については, 補足的なものであるため削除。
132	・砂を挟在するが, 周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
133	・硬軟や割れ目の発達程度については, RQD, 最大コア長, 岩級区分で示していることから削除。
134	・割れ目沿いの鉱物の晶出, 変色については, 補足的なものであるため削除。
135	・割れ目の発達程度については, RQD, 最大コア長, 岩級区分で示しているため削除。 ・一部に砂・シルトを挟在するが, 連続性に乏しく, 周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・マンガンや変色については, 補足的なものであるため削除。

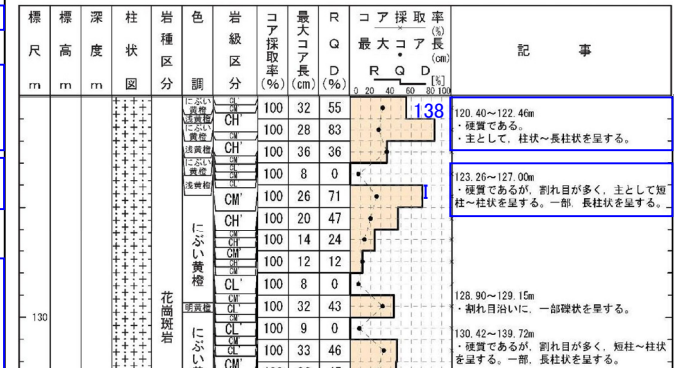
H27-B-4 コア観察カード (H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容
136 ~120.10m 割れ目に沿って変質が見られ幅2~4mm軟質となる
137 120.31m付近 65°の平行な割れ目が集中砂~礫状の狭在物が見られる 120.40m 58°の比較的シャープな割れ目。緑灰色の変質脈と厚さ2mmの水酸化鉄を伴う。
138 120.40~122.54m 堅硬な柱~長柱状のコア。褐色汚染が見られる割れ目が多い。
139 121.60m 割れ目沿いの一部が脆弱で細礫状となる。白色のシルト状の狭在物が見られる
140 122.46m 割れ目の周囲が変質により緑色味を及ぼす。輝沸石が散在し光る。褐色汚染顕著。
141 122.54~123.84m 顕在化した割れ目他、微細な割れ目が多い。
142 123.00~123.26m 高角度の割れ目には厚さ1~6mmの二酸化マンガンが挟まる。割れ目が集水し脆弱である
143 123.85m 60°の割れ目に厚さ3mmの褐色に汚染された砂が狭在する
144 124.09m~ 柱状コアが主体となり、岩質も硬い。~124.30mまでは割れ目に狭在物が見られる

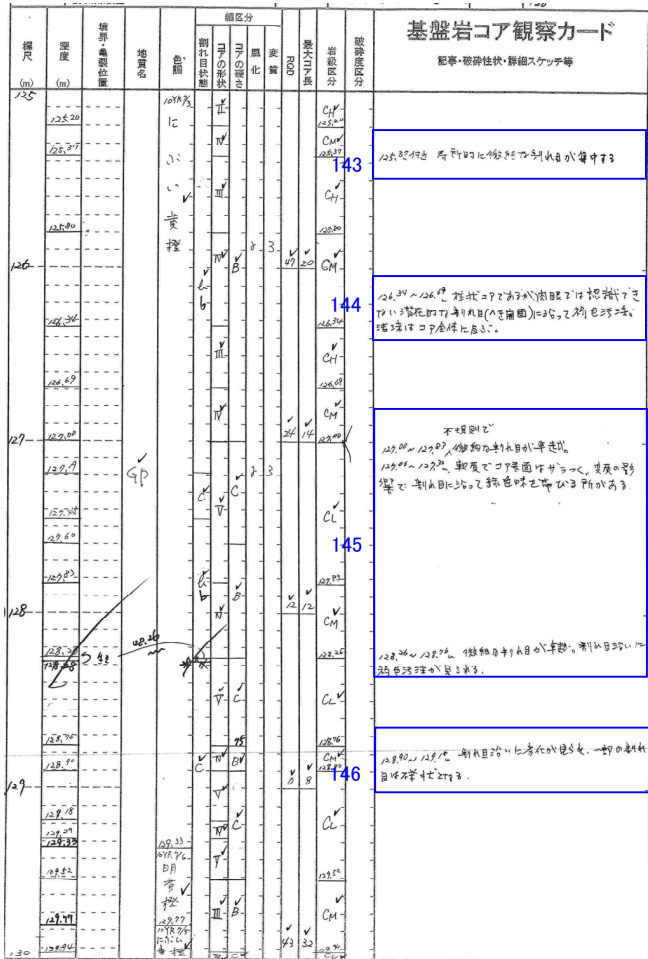


記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
136	・割れ目沿いに軟質となるが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
137	・120.31m付近で砂~礫を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・割れ目沿いの鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
138	・下端深度については、“コアの形状”欄に基づき、122.46mと記載。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
139	・一部割れ目沿いで細礫状を呈し、シルトを挟在するが、連続性に乏しく、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・色調、鉱物の晶出については、補足的なものであるため削除。
140	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。
141	・マンガンについては、補足的なものであるため削除。 ・脆弱化している部分は局所的であり、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。
1	・“コアの硬さ”欄に基づき硬質、“コアの形状”欄に基づき主として短柱~柱状、一部、長柱状と記載。
142	・123.85mで砂を挟在するが、周囲の岩盤に劣化が認められないことから削除。 ・硬軟や割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・割れ目の挟在物の有無については、補足的なものであるため削除。

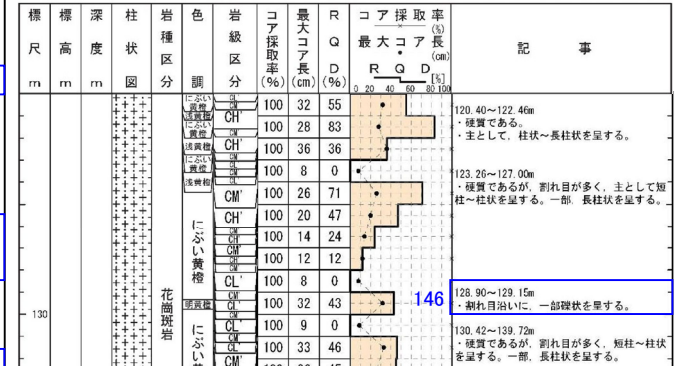
コア観察カード
(H27年8月)

コア観察カードの仮ワープロ変換

申請書用柱状図



記事内容	
143	125.37m付近 局所的に微細な割れ目が集中する
144	126.34~126.69m 柱状コアであるが、肉眼では認識できない潜在的な割れ目(へき開面)に沿って褐色汚染。汚染はコア全体に及ぶ。
145	127.00~127.83 不規則で微細な割れ目が卓越。 127.06~127.30m 軟質でコア表面はザラつく。変質の影響で割れ目に沿って緑色味を帯びる所がある
146	128.26~128.76m 微細な割れ目が卓越。割れ目沿いに褐色汚染が見られる。 128.90~129.15m 割れ目沿いに劣化が見られ、一部の割れ目は礫状となる。



記事	コア観察カード(H27年8月)⇒申請書用柱状図
143	・割れ目の発達程度については、周囲の割れ目と差異が認められないため削除。
144	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・変色については、補足的なものであるため削除。
145	・割れ目の発達程度については、RQD、最大コア長、岩級区分で示しているため削除。 ・コア表面の粗さ、割れ目沿いの変色については、補足的なものであるため削除。
146	・変更なし